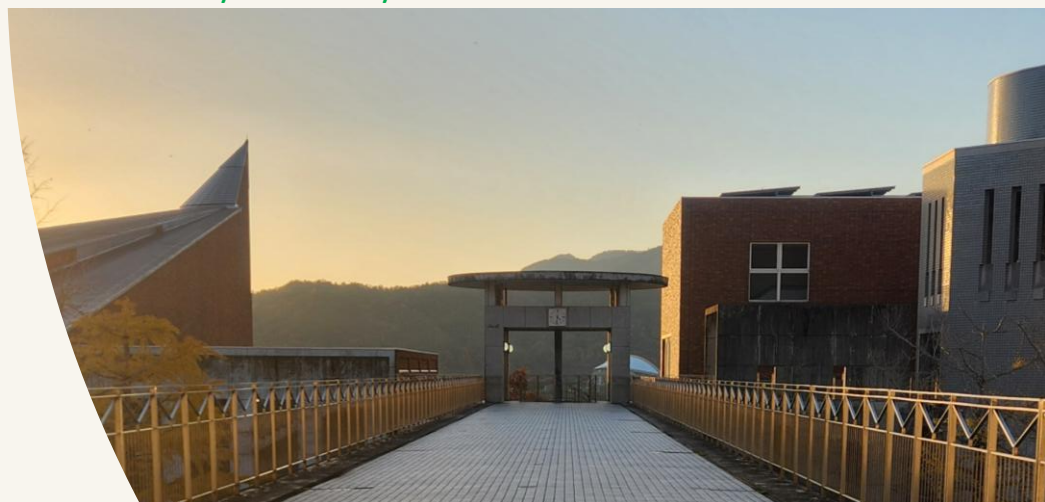


広島市立大学大学院
情報科学研究科

履修案内 2026



Hiroshima City University Graduate School of Information Sciences



2026 Student Handbook



3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

〒731-3194 広島県広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/>



2026年度 授業カレンダー

前 期								後 期							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月	29	30	31	1	2	3	4	10月	27	28	29	30	1	2	3
	5	6	7	8	9	10	11		4	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17	18		11	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24	25		18	19	20	21	22	23	24
	26	27	28	29	水30	予1	2		25	26	27	28	29	30	31
5月	3	4	5	6	7	8	9	11月	1	2	3	4	火5	6	7
	10	11	12	13	14	15	16		8	9	10	11	12	13	14
	17	18	19	20	21	22	23		15	16	17	18	19	20	21
	24	25	26	27	28	29	30		22	23	24	25	26	27	28
6月	31	1	2	3	4	5	6	12月	29	30	1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12	13		6	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26
7月	28	29	30	1	2	3	4	1月	27	28	29	30	31	1	2
	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	予15	16
	19	20	21	月22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23
8月	26	27	28	29	30	31	1	2月	24	25	金26	27	28	29	30
	2	3	4	5	6	予7	8		31	1	2	予3	予4	予5	6
	9	予10	11	予12	13	14	15		7	8	9	10	11	12	13
	16	17	18	19	20	21	22		14	15	16	17	18	19	20
9月	23	24	25	26	27	28	29	3月	21	22	23	24	25	26	27
	30	31	1	2	3	4	5		28	1	2	3	4	5	6
	6	7	8	9	10	11	12		7	8	9	10	11	12	13
	13	14	15	16	17	18	19		14	15	16	17	18	19	20
9月	20	21	22	23	24	25	26	3月	21	22	23	24	25	26	27
	27	28	29	30					28	29	30	31			

授業・試験実施

凡例

- * 太線枠内は、授業等を行う期間
(集中講義は太線枠外でも行う)
- * は、入学式、卒業式
- * は、授業等振替日
- * は、授業予備日 (通常授業はなし)
- * は、第1・第3ターム科目の試験期間
(通年・セメスター科目は授業を行う)
- * は、期末試験日
- (は、試験予備日)
- * は、祝休日に授業・試験を行う日
- * は、全学休業日

クォーター期間

- ・ 第1ターム (4月8日～6月9日)
- ・ 第2ターム (6月10日～8月12日)
- ・ 第3ターム (10月1日～11月27日)
- ・ 第4ターム (11月28日～2月5日)

学内行事等

- (1) 春季入学式は4月2日 (木)、秋季入学式は10月1日 (木) とする。
- (2) オリエンテーションは、4月2日 (木) ～7日 (火) とする。
- (3) 6月14日 (日) の開学記念日は日曜日なので、振替日はなしとする。
- (4) 8月6日 (木) は、平和記念日のため休業とする。
- (5) 秋季卒業式は9月25日 (金)、春季卒業式は、3月23日 (火) とする。
- (6) 1月15日 (金) は授業を行わず大学入学共通テスト準備を行う。

授業関係

- ア 4月30日 (木)は、水曜日の授業を実施する。
- イ 5月1日 (金)は、授業予備日とする。(通常の授業はなし)
- ウ 7月22日 (水)は、月曜日の授業を実施する。
- エ 10月16日 (金)は、月曜日の授業を実施する。
- オ 11月5日 (木)は、火曜日の授業を実施する。
- カ 11月23日 (月・勤労感謝の日)は、月曜日の授業・試験を実施する。
- キ 1月26日 (火)は金曜日の授業を実施する。

学年暦 (2026年度)

		日 程	事 項	
前期 (4月1日～9月30日)	第1ターム (4月8日～6月9日)	4月 1日 (水) ～ 7日 (火)	春季休業	
		4月 2日 (木)	春季入学式	
		4月 2日 (木) ～ 7日 (火)	オリエンテーション	
		4月 2日 (木) ～ 7日 (火)	定期健康診断	
		4月 8日 (水)	前期授業開始	
		4月 2日 (木) ～15日 (水)	前期履修登録期間	
		4月8日 (水) ～14日 (火)、17日 (金)* 4月2日 (木) ～24日 (金)*	教科書販売 (冊子) 教科書販売 (電子)	
		4月22日 (水) ～24日 (金)	前期履修確認期間、第1ターム科目履修取消期間	
		4月30日 (木)	水曜日の授業実施	
		5月20日 (水) ～22日 (金)	前期・通年科目履修取消期間	
		6月 3日 (水) ～ 9日 (火)	第1ターム試験期間 (通年・セメスター科目は授業を行う)	
	第2ターム (6月10日～8月12日)	6月14日 (日)	開学記念日	
		6月24日 (水) ～26日 (金)	第2ターム科目履修取消期間	
		7月 6日 (月)*	第1ターム科目成績開示	
		7月22日 (水)	月曜日の授業実施	
		7月30日 (木) ～ 8月12日 (水)	前期定期試験	
		8月 6日 (木)	平和記念日 (全学休業日)	
		8月13日 (木) ～ 9月30日 (水)	夏季休業	
		8月17日 (月)	全学休業日	
		9月 1日 (火)*	前期・第2ターム科目成績開示	
		9月25日 (金)	秋季卒業式	
		9月24日 (木) ～10月 7日 (水)	後期履修登録期間	
	後期 (10月1日～3月31日)	第3ターム (10月1日～11月27日)	10月 1日 (木)	秋季入学式、後期授業開始
			10月1日 (木) ～7日 (水)、9日 (金)* 9月24日 (木) ～10月19日 (月)*	教科書販売 (冊子) 教科書販売 (電子)
			10月16日 (金)	月曜日の授業実施
			10月19日 (月) ～21日 (水)	後期履修確認期間、第2ターム科目履修取消期間
			10月24日 (土)・25日 (日)	大学祭
11月 5日 (木)			火曜日の授業実施	
11月 9日 (月) ～11日 (水)			後期科目履修取消期間	
11月23日 (月) ～27日 (金)			第3ターム試験期間 (通年・セメスター科目は授業を行う)	
11月23日 (月)・勤労感謝の日			月曜日の授業実施	
第4ターム (11月28日～2月5日)		12月14日 (月) ～16日 (水)	第4ターム科目履修取消期間	
		12月24日 (木)*	第3ターム科目成績開示	
		12月26日 (土) ～ 1月 3日 (日)	冬季休業	
		1月26日 (火)	金曜日の授業実施	
		1月27日 (水) ～ 2月 5日 (金)	後期定期試験	
		2月 6日 (土) ～ 3月31日 (水)	学年末休業	
		3月 2日 (火)	卒業判定結果の開示 (4年次)	
		3月 3日 (水)*	後期・第4ターム・通年科目成績開示	
		3月19日 (金)*	【国際・芸術】卒業論文・卒業制作着手判定結果開示(3年次)	
		3月19日 (金)*	【情報】配属学科(1年次)、進級判定結果(1～3年次) 開示	
3月23日 (火)	春季卒業式			

※の日程は変更の可能性があります。いちばる (UNIPA) の掲示で別途お知らせしますので確認してください。

附属施設等の利用について

開館・利用時間等は、各ホームページから最新情報を確認してください。
各施設の場所は、[キャンパスマップ](#)をご覧ください。

1	附属図書館	附属図書館オリジナルサイト (年間カレンダー) 電話 082-830-1508
2	語学センター	語学センターオリジナルサイト 電話 082-830-1509
3	情報統括センター	情報統括センターオリジナルサイト 電話 082-830-1511
4	心と身体の相談センター	心と身体の相談センター (大学ホームページ) 電話 082-830-1510
	保健室	応急手当、健康相談、健康チェック等 (本部棟1階)
	相談室	カウンセリング (本部棟1階)
5	法律相談	紙屋町法律相談センターでの法律相談 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)
6	売店	(学生会館2階)
	コンビニ	文房具、弁当、生活用品、書籍等 [生活彩家]、[紀伊国屋書店]
	画材店	画材等 [ピカソ画房]
7	学生食堂	定食、めん類、カレー等 (学生会館1階)
8	喫茶	軽食類、デザート類、コーヒー等 (学生会館1階)
9	駐車場	構内駐車場の利用申請 (大学ホームページ) 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)
10	キャッシュコーナー	ゆうちょ銀行ATM (学生会館2階)
11	集会室 、 体育館 、 テニスコート 、 グラウンド	利用申込が必要 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)



授業等

科目の種類

授業科目は講義、演習、実験、実習、実技などに区分され、それぞれ授業時間や単位数が異なります。また、科目の性質によって以下のように区分されますので、よく理解しておくようにしましょう。授業科目の詳細は教育課程表を参照してください。

必修科目

卒業のために必ず単位を修得しなければならない科目です。

選択科目

卒業のため自身の教育課程表の中から、選択することができる科目で、修得単位は卒業要件単位に加算されます。卒業要件をよく理解したうえで選択する必要があります。

自由科目

興味関心に応じて自由に履修することができる科目です。例えば、資格取得関係科目が該当します。卒業要件単位には数えられませんので注意してください。

単位

それぞれの授業科目には単位数が決められています。1単位を修得するためには、教室内での授業等の時間及び教室外での自主的な学修時間を合わせて45時間の学修を行う必要があります。なお、45時間のカウントについては、講義、演習、実験、実習、実技によって原則的に次のようになっています。

区 分	大学の授業での学修時間	授業時間外の自主的な学修時間	合 計
講 義	15時間	30時間	45時間
演 習	30時間	15時間	45時間
実 験 実 習 実 技	30～45時間	0～15時間	45時間

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30

注) 通常の授業は1～5時限で行われます。

開講区分

授業科目は次の開講区分により開講されます。

開講区分	説明（開講期間）
通年科目	年間を通して開講
前期科目	前期半年間に開講
第1ターム科目	前期半年間の前半に開講
第2ターム科目	前期半年間の後半に開講
後期科目	後期半年間に開講
第3ターム科目	後期半年間の前半に開講
第4ターム科目	後期半年間の後半に開講
集中講義科目※	特定の期間に集中して開講

※ 基本的には、前期又は後期に開講する授業科目ですが、諸般の理由により長期休業期間（夏季休業、学年末休業）も含め集中開講となるものです。

授業アンケート

本学では、学生のみなさんが授業をどのように評価しているかを知り、授業の改善に役立てるために授業アンケートを実施しています。回答した個人が特定されることはありませんので、率直な意見を回答してください。詳細は学期末に[いちぼる \(UNIPA\)](#) の掲示でお知らせします。

教科書等

授業で使う教科書や参考書は、[いちぼる \(UNIPA\)](#) の「シラバス照会」から確認できます。また、一部の授業では電子教科書システムUniTextを利用します。指定の教科書は、学内の書店や販売サイトで購入できます。販売期間等は学年暦やいちぼる (UNIPA) の掲示で確認してください。なお、教科書等は附属図書館で借りることもできますが、冊数には限りがありますのでご注意ください。

授業で利用するシステム

[いちぼる \(UNIPA\)](#) で履修登録をすると、登録した授業の時間割や「クラスプロフィール」を確認できるようになります。クラスプロフィールでは、授業資料の確認や課題やテストの提出ができます。

そのほか、大学のアカウントで利用可能なMicrosoft TeamsやGoogle Classroomを使う場合もありますので、授業担当教員の指示に従ってください。

講義等を欠席する場合の手続き

病気やケガによる入院等、やむを得ない事情により講義等を欠席する場合は、その講義等の担当教員まで申し出てください。なお、感染症にかかった場合は以下のリンクから確認してください。

<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/content0069/>

休講・補講・教室変更などの通知

休講・補講・教室変更などがある場合には、[いちぼる \(UNIPA\)](#) で通知します。授業担当教員から直接連絡がある場合もあるため大学付与のメールアドレスも毎日チェックしましょう。

こうした通知や連絡を見なかったために皆さんに不利益が生じて、大学は責任を負いません。毎日通知や連絡を見る習慣を身に付けてください。

ワンポイント・アドバイス



掲示

いちぼる (UNIPA) の「掲示」では、大学からのお知らせが確認できます。

休講・補講・教室変更などの通知をはじめ、重要な手続きやイベントの案内、授業内の連絡など様々なお知らせが届きます。常に確認する習慣を付けましょう。

自然災害や交通機関の運休時の授業

暴風雨などの自然災害やストライキ等によって公共交通機関の運行に支障が生じたり、そのおそれがある場合は、状況に応じて授業を休講とする場合があります。その取扱いは次のとおりとします。

1. 授業の実施が困難な場合の判断基準

- (1) 広島地方気象台から広島市安佐南区に暴風警報、暴風雪警報又は気象等に関する特別警報のいずれかが発表された場合
- (2) 暴風雨などの自然災害やストライキ等により、ア又はイが発生した場合
ア アストラムライン及び高速4号線を通る広島電鉄バスの双方が全面的に運行停止
イ JR山陽本線において広島駅又は横川駅を含む区間が運行停止

2. 休講の取扱い

- (1) 授業開始後に上記1のいずれかの事由が発生した場合は、その後に開始される授業を休講にします。
- (2) 授業開始前に上記1のいずれかの事由が発生している場合は、発生した時間により次のとおり休講とします。
 - 午前7時の段階で上記1の事由が発生している場合は、午前中の授業は休講
 - 午前10時の段階で上記1の事由が継続している場合は、午後の授業もすべて休講

3. 避難情報の「警戒レベル」について

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、自治体から発令される避難情報の「警戒レベル」は、休講の判断基準となりませんが、本学・自分の居住地域・通学途上の地域に『避難指示』（警戒レベル4）以上が発令されている場合は、自分や家族の身の安全を最優先に考え、授業に出席するか欠席するかを判断してください。

欠席しても「欠席扱い」とはなりませんので、後日、担当教員に事情説明を行い、授業の指示を仰いでください。（定期試験の場合は、1週間以内に「追試験受験願」を事務局教務グループに提出してください。）

なお、本学は安佐南区の「緊急避難場所」に指定されています。

4. その他

上記1の判断基準に該当しない自然災害（地震など）及びそれに伴う公共交通機関の運行停止などが発生した場合の休講等についてはその都度お知らせします。

障がいのある学生への支援

心身に障がいのある学生が他の学生と同じように授業を履修し、大学生活を送れるよう合理的な配慮を行っています。配慮を希望する学生は、心と身体の相談センターの保健室または、相談室に相談してください。

申請の対象になるのかわからない、どんな配慮を希望してよいのかわからない、困っているけれどどこに相談したらよいのかわからない等、何でも相談できますので、まずは、気軽にお問い合わせください。

詳細はこちらから <https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/category0006/c00032297/>

履修登録

履修登録とは、履修しようとする授業科目を登録する手続きです。履修登録を行っていない授業科目は、必修科目であっても受講することはできないため単位を修得できません。登録内容の誤りなどにより進級や卒業ができなくなっても、自身の責任となります。以下の流れで手続きを行いますので、前述の資料や大学からの連絡事項に十分注意して、間違いのないように履修登録を行ってください。各期間の日程は、学年暦を確認しましょう。

STEP

1

履修登録期間

いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。いちぼる (UNIPA) の操作マニュアルを参考に、指定の期間に正しく登録してください。前期の履修登録期間には、年間分 (前期・後期の両方) の科目を一括して登録することができます。前期に登録した後期開講科目は、後期の履修登録期間で修正できます。



- 履修登録すると、いちぼる (UNIPA) のクラスプロフィールから授業情報 (講義資料など) が確認できます。
- 第2・4ターム科目や集中講義などの学期途中から始まる授業も、当該期間中に必ず登録してください。
- クラス分けのある授業などは、あらかじめ履修登録されている場合があります。内容に変更がある場合は事務局教務グループまでお問い合わせください。
- 履修内容にエラーがあるときは、必ず登録内容を見直し、必要に応じて修正をしてください。エラーの内容が分からない場合は、事務局教務グループまでお問い合わせください。

【よくあるエラーの内容】

- ・履修の上限単位数を超えている
- ・必修科目を登録していない
- ・必要要件単位を満たしていない

STEP

2

履修確認期間

履修確認期間はSTEP1の期間に登録した科目を変更・追加・削除できる期間です。いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。変更内容は、事務局で確認した結果、却下される場合もあります。履修内容に変更がない場合、手続きは不要です。

自身の確認不足による登録誤りは、履修確認期間終了後に修正することができません (後述の履修登録取消制度で取消しをする場合を除く) ので注意してください。

STEP

3

履修確定

STEP1・2の期間を経て履修内容を確定します。履修確定後、当該年度内の卒業が見込まれる場合には、卒業見込証明書が発行できるようになります。

GPA制度 と履修

履修取消期間

履修取消期間は、一度履修登録を確定させた授業科目について、GPA制度に基づき、登録を取り消すことができる期間です。いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。

授業の内容が自分の勉強したいものと違って、授業に対する知識が不足していることに気付いた、学修時間を確保するために履修科目数を減らしたい、といった場合に手続きを行いましょう。



- 必修科目やシラバスに取消不可と明記されている科目は取り消しできません。
- 集中講義科目は初回授業の2週間前まで履修取消ができます。当該期限以降の履修取消期間での取消はできませんので注意してください。手続きはいちぼる (UNIPA) の「Web申請」から行うことができます。

ワンポイント・アドバイス

いちぼる (UNIPA) の「Web申請」では、各種手続きについて案内しています。申請様式のダウンロードや、なかにはオンラインで申請できるものもあります。

希望資格登録

教育職員免許状の取得や学芸員を目指す人は、「希望資格登録」を行う必要があります。希望者は履修登録期間内にいちぼる（UNIPA）から必ず手続きをしてください。登録がない学生は、資格取得関係科目の履修ができなかったり、教職や学芸員資格に関するお知らせ等が配信されなかったりしますので注意してください。

履修にあたっての注意事項

(1) 履修の禁止

次の授業科目は履修することができません。

- ・履修登録をしていない授業科目
- ・既に単位を修得した授業科目

(2) 履修登録上限単位数

学修における予習・復習の時間を十分に確保し、一つひとつの授業科目の理解を深めるために、次のとおり1学期に履修できる単位数の制限を設けています。通年科目は、その単位数の1/2を1学期あたりの単位数として計算します。



履修登録上限単位数
24単位



MEMO
前期・後期授業期間中に実施する集中講義は、この上限単位数に含まれます。

<例外>

- 履修登録上限の対象とはならない授業科目
 - ・長期休業期間（夏季休業・学年末休業）に実施される集中講義
 - ・自由科目、資格取得関係科目
- 履修登録上限の対象とはならない学生
 - ・情報科学部で履修登録単位数の上限解除が認められた学生（所属学科の承認が必要です。）

(3) 下年次開設科目の履修（再履修）

下年次開設科目や、単位を修得できなかった授業科目は、次年度（または次学期）に再履修することができます。ただし、再履修にあたっては、担当教員の承認が必要となる場合があります。

(4) 他学部・他学科履修等

所属する学部以外の学部開設されている全学共通系科目あるいは所属する学部・学科・専攻以外の専門教育科目の履修を希望する場合は、以下の手順で手続きを行ってください。なお、他学部・他学科履修により修得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は10単位です。

他学部履修

所属する学部以外の学部開設されている授業科目の履修を希望する場合は、いちぼる（UNIPA）の「Web申請」から履修登録期間内に「他学部履修申請」を行ってください。

他学科履修（情報科学部のみ）

所属する学科以外の学科開設されている授業科目の履修を希望する場合は、必ず授業担当教員の承諾を得た上で、履修登録期間内にいちぼる（UNIPA）から履修登録を行ってください。無断で履修してはいけません。履修登録のSTEP2の期間までに教務委員による審査を行い、結果を通知します。審査の結果、却下される場合もあります。

また、自学科でも開設されている授業科目と同一名もしくは内容が同じと認められる他学科の授業を履修する場合には、「Web申請」から「代替履修許可申請書」をダウンロードし、履修登録期間内に事務局教務グループに提出してください。

(5) 遠隔授業の履修

授業の実施形態が「オンライン」または「オンデマンド」の授業について、卒業要件として認められる単位の上限は60単位（(4)および後述の単位互換制度により修得した単位を含む）です。授業の実施形態はシラバスで確認することができます。

単位互換制度

単位互換とは、本学以外の大学が提供する授業科目を受講して修得した単位を、本学の単位として認定する仕組みです。単位互換制度により修得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は60単位（前述の(4)および(5)により修得した単位を含む）です。

◆ 協定を結ぶ機関との単位互換

(1) 海外学術協定校への派遣留学

本学では海外の大学と協定・覚書を締結し、学生の交換留学を推進しています。派遣期間中に修得した単位は、学部での審査を経て、本学の単位に認定することができます。認定を希望する場合は、事務局教務グループにご相談ください。

また、協定校以外の大学に留学して単位を修得する場合でも認定できることがあります。希望する場合は、必ず留学前に事務局教務グループに確認してください。

<手続きに必要な書類>

- ・単位認定願（事務局教務グループで配布）
- ・成績証明書（原本）
- ・認定を希望する授業科目のシラバス
- ・認定を希望する授業科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・成績評価基準が分かるもの

※いずれも外国語で書かれたものであれば、日本語訳を添付すること

(2) 教育ネットワーク中国

本学では他大学との連携や、教育内容の充実を図る目的で一般社団法人「教育ネットワーク中国」が実施する単位互換制度に加入しています。広島県内の大学を中心に23の大学等が参加しており、各大学が提供する授業科目を単位互換科目として受講することができます。修得した単位は一部を除き、原則自由科目として認定されますが、学部によって科目の取扱いが異なるので、Webで公開される募集要項等を確認するようにしましょう。

（一社）教育ネットワーク中国 <https://www.enica.jp/>

◆ 既修得単位等認定

本学に入学する前に大学又は短期大学で修得した単位は、学部での審査を経て、全学共通系科目又は外国語系科目として認定することができます。入学した日から1か月以内に申請が必要です。認定を希望する場合は、事務局教務グループに早めに相談してください。

<手続きに必要な書類>

- ・既修得単位等認定願（事務局教務グループで配布）
- ・成績証明書（原本）
- ・認定を希望する授業科目のシラバス
- ・認定を希望する授業科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・成績評価基準が分かる

人材育成の目標及びポリシー

「人材育成の目標」は、建学の基本理念である「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」に基づき、本学がどのような人材を育てるかを伝えるものです。これは、みなさんが卒業するときに、どんな人になってほしいかという大学からみなさんへのメッセージでもあります。

「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」は、人材育成の目標に基づき、どんな力を身につけた人に本学が学位を授与するのかを伝えるものです。本学での学びを通して、みなさんが卒業するとき、どんなことをできるようになっているのか、どんな力を身につけているのかを示しています。

「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力をみなさんが確実に身につけられるように、本学がどうしているかを考えて教育課程（カリキュラム）を編成しているかを伝えるものです。みなさんの教育課程を構成するさまざまな科目や条件が、どういう考え方のもとに設けられているのかを示しています。

本学では、大学（大学院課程）全体の方針のもとに、研究科ごとに「人材育成の目標」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を定めています。

大学院課程

人材育成の目標

広島市立大学大学院は、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、最先端かつ高度な専門性と深い学識を有し、課題発見・分析・解決能力を持ち、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

広島市立大学大学院は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の高度な知識・技能・能力を身に付けた上で研究科が定める審査に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与します。

多様な文化・価値観を尊び、人間、社会、自然、平和に関する幅広い関心と知識〈普遍的教養〉
専門領域に関する体系的な知識・技術・技能〈専門的知識・技術・技能〉
豊かな感性と真理探究への情熱に基づく課題発見・分析・解決能力〈課題解決能力〉

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

広島市立大学大学院は、それぞれ博士前期課程と博士後期課程を有する3研究科及び修士課程を有する1研究科で構成され、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、最先端かつ高度な専門性と深い学識を有し、課題発見・分析・解決能力を持ち、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標として、教育課程を次のとおり編成します。

1. 高度の専門性を要する職業等に必要能力を養うため、各研究科において、基礎から応用に至る教育課程を編成します。
2. 博士前期課程については、幅広い視野に立った学識を身に付け、高い倫理観を養うことを目的とする全研究科共通科目群を開設します。
3. 博士後期課程については、各研究科の特性に応じた、高度な研究指導を行います。

各研究科

各研究科の「人材育成の目標」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」は大学公式ウェブサイトから確認できます。履修する授業科目を決定する前に、以下のリンクから確認をしてください。

https://www.hiroshima-cu.ac.jp/various_info/category0015/content0111/content0656/



情報科学研究科の概要

1 情報科学研究科について

研究科の構成

大学院情報科学研究科の博士課程は、標準修業年限2年の博士前期課程と、標準修業年限3年の博士後期課程の区分制の博士課程です。

博士前期課程は、情報工学専攻、知能工学専攻、システム工学専攻及び医用情報科学専攻の4専攻を設置しており、博士後期課程は情報科学専攻の1専攻です。入学定員及び収容定員は次のとおりです。

専攻名	入学定員		収容定員	
	前期課程	後期課程	前期課程	後期課程
情報工学専攻	23	—	46	—
知能工学専攻	23	—	46	—
システム工学専攻	23	—	46	—
医用情報科学専攻	15	—	30	—
情報科学専攻	—	28	—	84
計	84	28	168	84

2 情報科学研究科博士前期課程について

(概要)

「情報科学」の進展は、産業・経済、社会システムなど経済活動や社会生活に大きな変革をもたらし、その役割は重要度を増し、かつ、広がりを見せています。また、「情報科学」は工学、物理学、生命科学、生物学、社会科学といった学問領域と融合し、旧来の学問領域の枠を越えて新しい科学技術領域を産み出し、新しい産業を創出しつつあり、情報科学の学際・融合領域における人材の育成と教育研究の充実が求められる状況となっています。

こうしたことから、次のように「情報科学」を中心に教育研究を行う3専攻と「情報科学と医用生体工学との学際・融合領域」の人材育成を行う専攻を設けています。

①情報工学専攻

コンピュータとネットワークに関するソフトウェアとハードウェアの教育と研究をします。また、コンピュータとネットワークが融合する新しい情報環境に求められる包括的な技術の研究開発をします。

②知能工学専攻

人間における「知的能力・機能」の解明と、人間の知能に限りなく近いシステムの実現について教育研究します。

③システム工学専攻

様々な情報技術を有機的に結合し、より高度な機能を発揮させるシステム化技術を教育研究します。

④医用情報科学専攻

「バイオ情報学」、「医用画像工学」、「医用ロボット」、「脳情報科学」、「医用情報通信」の5つの専門分野を設け、さらにこれらが連携することで学際・融合領域である医用情報科学、生体情報科学に関する専門知識・技術の体系的な教育・研究を行います。

(人材育成の目的)

情報科学研究科では、高度情報通信社会を支える「情報技術」に関する研究開発を担う研究者及び高度専門技術者を養成することを目的とします。

4専攻は以下のような人材を育成します。

- 情報工学専攻は、高度情報通信社会の進展、将来予測を鑑み、コンピュータ及びネットワークについて深く、広い知識を身に付けた人材を育成することはもとより、コンピュータとネットワークの両者が融合した新たな情報環境の創出を担える人材を育成します。
- 知能工学専攻は、知能ソフトウェアや知能メディアに基づいた高度な知的情報システムの研究開発能力を持った人材を育成します。
- システム工学専攻は、広範な価値観のもとでシステム全体の高機能化と強調を図る広い視野をもった研究開発能力を身につけた人材を育成します。
- 医用情報科学専攻は、様々な分野間の研究に横断的に取り組み、柔軟に境界領域、医用応用領域を開拓できる問題発見・解決型能力を身につけた人材を育成します。

(教育研究の特色)

1. 理学・工学を統合する視点に立った情報科学のカリキュラムにより、数理的、論理的基礎からコンピュータ、さらには人工知能、ヒューマン・インタフェースに至るまで、情報科学に関する専門性の高い教育研究を行います。
2. 科学技術の高度化と多様化に対応できるよう、基礎から応用までの学識、技術の体系を修得できるよう授業科目を開設します。
3. 授業科目は Semester 制とし、おおむね1年次で修得できるよう履修時期を設定します。
4. 各専攻にはコア科目を設定するとともに、コア科目を中心とした幅広い専門知識を修得させるため、4専攻の教員が協力した教育を実施します。
5. 研究者、技術者としての重要な資質である創造性、自立性を養うため、自主プロジェクト演習を開設します。
6. 情報科学の最先端の事項を、内外の第一線の研究者を招き集中講義の形式で講義する授業科目を開設します。
7. マルチメディアネットワークを利用した教育・研究を推進します。

3 情報科学研究科博士後期課程について

(概要)

現在、地球的な規模で進行している情報基盤のグローバル化、ボーダレス化に伴い、パラダイムシフトを予見し、先導するための国際的な視野と競争力をもつ高度な研究者・技術者の養成が必要不可欠です。

このような新しいタイプの人材を養成するためには、従来の大学院博士課程における専門性を重視した教育に加えて、専門にとらわれない幅広い視野、実践的なセンス及び的確な判断力を養うことが重要です。これらを実現するためには、地域との幅広い領域にわたる実践的な共同研究を通して、博士課程の学生が自ら課題を発掘し、その解決に努力する機会をもつことが必要です。

このような新時代の要請に応じて、高度研究開発能力の育成・向上と、実践的課題解決能力の育成を目的として、博士後期課程を設置しました。

(人材育成の教育方針)

- 高度な専門知識と幅広い識見、実践力をもつ研究者・技術者の育成
- 先端的な科学技術に柔軟に対応し、均衡のとれた学識と感性をもって後進を指導することができる教育者の育成
- 高度な科学技術を広く社会に還元し、地域の活性化に資する人材の育成
- 自主的課題発掘能力、実践的課題解決能力、高度な研究開発能力を備えた人材の育成

(教育研究の内容)

情報工学系

コンピューティング

高度情報通信社会を支えるコンピューティングの実現を使命とし、革新的コンピュータアーキテクチャとシステムソフトウェアの研究を行う「コンピュータシステム分野」、コンピューティングの基盤となる計算理論・設計最適化・プログラミング言語及び方法論を研究する「計算・設計理論分野」、及び、未来のコンピューティングの礎となる先進的萌芽的研究を推進する「新原理コンピューティング開拓分野」、の3分野からなります。

コミュニケーション

情報通信の基盤となるインターネット、モバイル通信等の最新技術を学習する「次世代ネットワーク技術分野」に加え、安心して利用できる情報流通を保証する「セキュリティ技術分野」、数理科学を用いたコミュニケーション基盤技術を実現する「ネットワーク科学分野」の3分野からなります。

センシング

センシング分野は人々が安心して快適に暮らせる社会を実現するために有用な情報を取得するセンシング技術に加え、取得した情報を分析・可視化・配信するためのソフトウェア技術を研究対象とする。ワイヤレスシステムに基づくIoTによる様々な自然現象のモニタリングを研究する「モニタリングネットワーク」、多様かつ複雑な情報収集・配信を実現するネットワークソフトウェアの設計を担当する「ネットワークソフトウェア」、様々な情報の計測値（物理量）を変換する素子やデバイスそのものを研究する「センサシステム」の各専門分野からなります。

知能情報科学系

データ科学

データ科学分野では、社会にあふれる膨大なデータから価値を引き出す研究を軸として、データの分析や、データからの知識の抽出、必要となる数理に関する分野などへ展開する研究と教育を行います。特に、並列分散処理や制約処理の最適化等によりビッグデータ等を効率的に処理し人間にとって有用な規則や知識を抽出するデータマイニングを扱う分野、構造を有するデータの分類手法を扱う分野、および数理モデル化やデータ解析技術などを扱う分野に重点をおいています。

人間情報学

人間情報学分野では、人間の情報処理の仕組みを利用して高度な応用システムを開発する研究を軸として、感性や、社会情報、マルチエージェントに関する分野などへ展開する研究と教育を行います。特に、人にやさしく実用性の高い知的情報処理技術を高度化するためのコンピュータによる学習支援を扱う分野、ビッグデータ社会におけるメディア処理とユーザエクスペリエンスを扱う分野、および数理的モデル化技術の高度化を目指した生物進化に基づく進化的計算や群知能に基づく最適化技術を扱う分野に重点をおいています。

知能情報学

知能情報学分野では、人間の知的な処理の仕組みを解明して高度な情報処理システムを作る研究を軸として、言語や視覚などのマルチモーダル処理や、情報の推論に関する分野などへ展開する研究と教育を行います。特に、画像・音声などのメディアを中心とする知的情報処理技術を高度化するための画像処理とコンピュータグラフィックスを扱う分野、音声・言語処理を扱う分野、および統計的情報処理に基づく推論技術を扱う分野に重点をおいています。

システム科学系

数理システムデザイン

人間や機械と共生する情報システムの構築のための基盤技術について研究します。数理システム・システム最適化・数値解析等の情報数理、様々な機器に組み込まれ多種多様なネットワーク上で安定に動作する組込みシステム、次世代コンピュータとして期待される量子コンピュータの実現に資する量子情報理論など、システム設計の基盤となる研究分野を主な研究の対象としています。また関連する分野として、電子物性、ソフトウェア設計、情報セキュリティなど研究も取り扱っています。

人間・ロボット共生

人間とロボットとの共生社会に向けて、人間が安全・安心・快適な生活を送るためのロボットシステムに関する研究を行っています。ロボティクス・メカトロニクス・システム制御などの基礎研究から、介護支援ロボット・福祉ロボット・救急搬送支援機器・リハビリ機器・パワーアシストなどの応用システムや、ヒューマンロボットインタラクションやAR/VRなどといったエンターテインメント・コミュニケーション応用まで幅広い研究を取り扱っています。

インタフェースデザイン

人間がコンピュータシステムを直感的・容易・快適に操作できること、あるいは、人間が操作を意識しなくてもコンピュータシステムが人間の意図・状況を理解して適切に動作することを目指したヒューマンインタフェース関連技術に関する研究を行っています。具

体的には、人間の動作・意図・状態を理解するための画像認識・音声認識、快適さやパフォーマンスを向上させるための音響技術、またそれらを産業応用（自動車、畜産、教育、健康管理など）に繋げていく研究を取り扱っています。

医用情報科学系

日本社会は急速に高齢化が進行し、今まで以上に「健康管理・医療・福祉」に対する産業需要が高まると予測されています。このような社会的要求に対応すべく、医用情報科学専攻では、計算科学と実験科学の双方のアプローチにより生命現象を解明する「バイオ情報学」、画像情報処理により最適な診断・治療の実現を支援する「医用画像工学」、機械的な手段により医療・福祉支援を目指す「医用ロボット」、脳機能の計測解析により脳システムを解明し応用する「脳情報科学」、情報通信・データ解析技術により人間と医療・福祉とを繋げる「医用情報通信」の専門分野を設け、更にこれらを連携することで医用情報科学、生体情報科学に関する専門知識や技術を体系的に教育・研究します。また実践的な演習や研究を通して自ら問題を発見し解決する能力を養成します。

情報科学研究科 各種手続き・届出等について

時期	区 分	説 明	手続き・届出先	期間・期限	対 象	
					博士前期課程	博士後期課程
4 月	主指導教員決定	授業科目の履修指導や学位論文の作成等に対する指導を行うため、学生ごとに主指導教員を決定し、通知します。	—	—	1年	1年
	研究題目届	1年次生は、 <u>主指導教員の指導を受け、必ず期日までに提出</u> してください。	提出フォーム 	4/3～4/21	1年	1年
	履修登録	履修内容について、 <u>必ず主指導教員に相談し、承認を得た上</u> で、前・後期分をいちぼる (UNIPA) から履修登録してください。	—	4/2～4/15	1～2年	1～3年
	教職課程登録	教育職員免許状の取得を希望する学生は、いちぼる (UNIPA) から「希望資格登録」を行ってください。	—	4/2～4/15	1～2年	1～3年
	学生情報登録 (住所、電話番号等登録)	履修登録期間中にいちぼる (UNIPA) から必ず登録してください。	—	4/2～4/15	1年	1年
	長期履修学生申請書 (注)	社会人に特定した入試制度により入学した者等で長期履修学生となることを希望する者は期限までに提出してください。	事務局教務・学部運営室 (教務グループ)	4/30 まで	1年	1年
	奨学金	日本学生支援機構や各種育英団体等の奨学制度があります。推薦依頼があり次第、学生支援グループからお知らせします。	事務局学生支援室 (学生支援グループ)	日本学生支援機構分は4月中旬	1～2年	1～3年
	学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険	入学生は全員、当該保険に加入します。	事務局学生支援室 (学生支援グループ)	—	1年	1年
	教科書販売	教科書は期間中、学生会館内集客室にて販売します。詳細は教務グループからお知らせします。	学生会館内売店「生活彩家」 (紀伊国屋書店)	4/8～14・17 (電子教科書は4/2～24)	1～2年	—
	「自主プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」申請	申請希望者は、実施要領を参照し、研究計画書を記入のうえ提出してください。	事務局教務・学部運営室 (教務グループ)	4/20～5/1	—	1～3年
博士学位論文予備審査申請	申請希望者は、 <u>予備審査願、論文目録、論文、(参考論文)、論文要旨、履歴書、研究業績書</u> を提出してください。	事務局教務・学部運営室 (教務グループ)	5/1 まで	—	2～3年	
5 月	「インターシップ」参加申請	参加希望者は、実施要領を参照し、応募票を記入のうえ提出してください。 <u>履修登録は不要です</u> 。応募にあたっては、4月末に開催する説明会に必ず参加してください。詳細はキャリアセンターからお知らせします。	事務局学生支援室 (キャリアセンター)	5月上旬	1～2年	—
7 月	博士学位論文本審査申請	申請希望者は、 <u>本審査願、論文目録、論文、(参考論文)、論文要旨、履歴書、研究業績書</u> を提出してください。	事務局教務・学部運営室 (教務グループ)	7月上旬 ※個別に連絡します。	—	2～3年 (予備審査合格者)

時期	区 分	説 明	手続き・届出先	期間・期限	対 象	
					博士前期課程	博士後期課程
10月	後期履修変更	前期に登録した履修内容に変更、追加、削除を希望する場合は、 <u>必ず</u> 主指導教員に相談し、承認を得た上で、いちぼる(UNIPA)から履修内容を変更してください。	—	9/24～10/7	1～2年	1～3年
	教科書販売	教科書は期間中、学生会館内集会所にて販売します。詳細は教務グループからお知らせします。	学生会館内 売店「生活彩家」 (紀伊国屋書店)	10/1～7・9 9/24～10/19 ※予定	1～2年	—
	博士学位論文 予備審査申請	申請希望者は、 <u>予備審査願、論文目録、論文、(参考論文)、論文要旨、履歴書、研究業績書</u> を提出してください。	事務局教務・学部 運営室 (教務グループ)	10/31 まで	—	2～3年
1月	博士学位論文 本審査申請	申請希望者は、 <u>本審査願、論文目録、論文、(参考論文)、論文要旨、履歴書、研究業績書</u> を提出してください。	事務局教務・学部 運営室 (教務グループ)	1月上旬 ※個別に連絡 します。	—	2～3年 (予備審査 合格者)
1月 (6月)	修士論文等	修了予定の学生は、主指導教員の承認を得て、修士論文題目届(1部)を提出した後、要旨及び修士論文(1編3部)を提出してください。	※詳細は教務グループからお知らせします。		1～2年	—
3月	満期退学及び 在学延長に関する 意向調査	博士後期課程在学3年を経過する学生は、在学延長か満期退学かの意向調査票を提出してください。	事務局教務・学部 運営室 (教務グループ)	3月上旬 ※主指導教員 を通じて連絡 します。	—	3年
随時	住所等変更届	変更があったときは、速やかに、いちぼる(UNIPA)から学籍情報変更申請を行ってください。	事務局学生支援室 (学生支援グループ)	—	1～2年	1～3年
	指導教員変更 願	指導教員に変更がある場合、指導教員変更願を記入し、変更前後の指導教員の押印を受け、提出してください。	事務局教務・学部 運営室 (教務グループ)	—	1～2年	1～3年
	研究題目届 (変更)	研究題目に変更がある場合は、教務グループにご相談ください。	事務局教務・学部 運営室 (教務グループ)	—	1～2年	1～3年
	アドバイザー 教員希望届	芸術学研究科の教員にアドバイス指導を受けたい学生は、主指導教員とアドバイス指導を受けたい芸術学研究科の教員の押印を受け、提出してください。	事務局教務・学部 運営室 (教務グループ)	—	1～2年	1～3年
	休学願、退学 願	主指導教員と相談した後、事務局で様式を受け取り、記入押印し主指導教員の押印を受け提出してください。 前期又は後期の中途休学は、当該期の授業料全額を納付する必要があります。休学が前期又は後期の全期間に渡る場合は、その前に休学願を提出してください。	事務局教務・学部 運営室 (教務グループ)	—	1～2年	1～3年

(注) 在学生在中途から長期履修学生となることを希望する場合は、前期からの場合は前年度の2月末までに、後期からの場合は当該年度の8月末までに、申請してください。ただし、最終年次(博士前期課程2年目、博士後期課程3年目に在学する者は申請できません。

※各種申請書類は、「[いちだい教務掲示板](#)」からダウンロードできます。(トップページ>様式>情報科学研究科)
 ※秋季入学者については、別途、確認してください。

博士前期課程の履修指導等について

1 履修指導及び方法

(1) 履修指導及び研究指導

大学院の教育は、単位制度に基づく授業科目（講義及び演習）の履修指導のほか、学位論文のための研究指導を次のように行います。

- ① 専攻長は、入学当初に個々の学生に対して主指導教員を定め、各学生をそれぞれ主指導教員の研究室に所属させます。また、希望している研究分野及び研究対象を勘案し、研究分野に対応した講義及び演習の授業科目について履修指導を行います。

学生は、主指導教員の指導を受けて、毎年4月又は10月の所定の期日までに、履修しようとする科目等について履修登録（履修届を提出）します。

なお、社会人等、情報科学分野以外からの入学者について、研究対象が明確でない場合には、専攻長が、研究対象を明確にするための助言と指導を行うとともに、これに即した講義科目の履修方法についても助言と指導を行います。

- ② 学生は、主指導教員の指導を経て、研究題目（学位論文テーマ）を、入学当初に専攻長に提出してください。これに基づいて、主指導教員は個々の学生に対し、研究計画書を提出させ、学位論文作成のための研究指導を行います。

- ③ 学生が希望する場合は、芸術学研究科の教員に「アドバイザー教員」となっていたら、アドバイス指導を受けることができます。

アドバイザー教員を希望する学生は、随時、主指導教員とアドバイス指導を受けたい教員の承諾を得た上で、「アドバイザー教員希望届」を提出してください。

- ④ プロジェクトによる演習については、年度はじめにプロジェクトを募集し、教員による選考を行い、実施プロジェクトを決めます。この場合についても、学生の希望研究対象を考慮し、アドバイザ（教員）を定め、適宜アドバイスを与え、その研究成果については、機会を設け発表を行い、講評します。

(2) 必要単位数

修了必要単位数は、全研究科共通科目及び研究科開設科目と合わせて、30単位とし、その内訳は次のとおりです。

区 分	単 位 数
全研究科共通科目	2単位
講 義	18単位以上（*の科目から8単位以上）
演 習	8単位以上

(3) 他専攻履修

他専攻で開設されている授業科目の履修を希望する場合には、[授業担当教員]と[自専攻の教務委員]に必ず事前に承認を得た上で、いちぼる（UNIPA）から履修登録してください。申請内容によっては却下される場合もあります。

他専攻の授業科目は10単位までが修了の要件となる単位として認定可能です。

(4) 修了要件

大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、原則、学会等で発表し、修士論文を提出し、その審査と最終学力試験に合格すれば修了となります。ただし、在学期間について、優れた業績を上げた学生は、大学院に1年以上の在学をもって、修了を認めることがあります。

2 研究

(1) 研究テーマの決定

主指導教員の指導の下、下記のように研究テーマを決定します。

- ①主指導教員が行っている研究に関連するテーマ
- ②自主的提案・希望に基づくテーマ

(2) 研究の実施

次の項目について十分なディスカッションを行いながら研究を進めます。博士前期課程修了までに学会発表、論文投稿ができることを目標とします。

- ①関連分野の先行文献調査
- ②目標設定
- ③研究計画立案
- ④研究実施
- ⑤研究成果のまとめ（修士論文）

(3) 研究指導方針

研究者・技術者として求められる素養を育成する次の視点から研究指導を行います。

- ①自主性・積極性・計画性
- ②信頼性・再現性・的確性
- ③継続性
- ④好奇心

3 学位

学位は、学生の所属する専攻及び学位請求論文（修士論文）の研究内容により、次のいずれかを授与します。

「修士（情報科学）」又は「修士（情報工学）」

〈学位授与方針〉

情報科学研究科は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の分野において、高度な専門的技術と理論を修得したうえで、修士論文を提出して審査に合格した学生に対して修了を認定し、修士（情報科学又は情報工学）の学位を授与します。

- ・ コンピュータ及びネットワークの基盤技術、融合技術並びに運用技術分野
- ・ 人間の知的活動を支援する知的情報システム技術分野
- ・ 効率・環境・安全などの多様な価値観のもとで調和と協調を図ったシステム技術分野
- ・ 情報科学・自然科学・工学および医用生体工学に関連する学際融合分野

〈論文審査基準〉

論文の審査に当たっては、以下の観点に基づき、総合的に判定を行います。

1. 新規性

論文の内容が、何らかの点で新しいものであること。

2. 有効性

研究テーマや問題の設定に妥当性があり、得られた結果が学術や産業の発展に何らかの意味で役に立つものであること。

3. 信頼性

先行研究や関連資料を踏まえ、研究目的を達成するために適切な方法が用いられていること。また、論文の内容や引用等が、信頼のおけるものであること。

4. 了解性

本論の展開が、理解し易く明瞭に記述されていること。文章に合理性があり、修士論文としての体裁が守られていること。

4 研究指導スケジュール

年次	時期	内 容	
1年	4月	研究室配属	
		新入生ガイダンス	
		主指導教員の決定	
		いちぼる（UNIPA）で履修登録（前・後期分）	
		（前期授業開始）	
		修了要件科目の履修（*特別演習Ⅰを履修）	
		研究題目届の提出（授業開始日から2週間以内）	
		研究計画書の提出	
10月	10月	（後期授業開始）	
		履修科目に変更がある場合は、いちぼる（UNIPA）で履修登録	
		修了要件科目の履修（*特別演習Ⅱを履修）	
2年	4月	UNIPA履修登録（前・後期分）	
		（前期授業開始）	
		修了要件科目の履修（*特別演習Ⅲを履修）	
	10月	10月	履修科目に変更がある場合は、いちぼる（UNIPA）履修登録
			（後期授業開始）
			修了要件科目の履修（*特別演習Ⅳを履修）
	1月上旬	修士論文題目届の提出	
	1月中旬	研究科委員会において修士論文審査委員を決定	
	1月中旬～下旬	修士論文要旨の提出、修士論文の提出	
	2月中旬	修士論文発表会（修士論文審査）	
3月上旬	修了判定		
3月下旬	学位授与		

※秋季入学者については、別途、事務局教務グループに確認してください。

※修士論文題目届、修士論文の要旨及び修士論文の提出時期並びに修士論文発表会の日時は専攻ごとに異なるので、別途掲示で確認してください。

※指導教員を変更する場合は、指導教員変更届を提出してください。

※研究題目を変更する場合は、教務グループへご連絡ください。

情報工学専攻の教育・研究内容・カリキュラム

1 教育課程編成方針及び特色

高度情報通信社会の進展とともにコンピュータおよびネットワークの重要性はますます増大し、日常生活まで深く関わるほどの膨らみを見せつつある。また、日々進化する脅威から情報資産を守り、安心安全な情報流通基盤を確保することが求められており、コンピュータ、コミュニケーション、センシングについて深く、広い知識を身に付けた人材の養成が緊急の課題となっている。さらに、これからの高度情報通信社会の進展、将来予測を鑑みると、コンピュータ、コミュニケーション、センシングの個々の技術だけでなく、これらを融合させた安心安全で利便性の高い情報環境の創出を担う人材の養成が急務となっており、情報工学専攻でその育成を行う。

2 教育・研究分野

情報工学専攻では、コンピューティング、コミュニケーション、センシングの教育・研究コースを設置し、コンピューティング（ディペンダブルシステム、論理設計・システム開発、量子コンピューティング等）、コミュニケーション（次世代ネットワーク、インターネットサービス、セキュリティ、知性ネットワーク等）、そしてセンシング（IoT プラットフォーム等）に関する教育研究を行うとともに、これらの技術をベースに、コンピュータとネットワークの融合技術、セキュアな情報環境の創出を担う人材を育成するための教育・研究を行う。

①コンピューティング分野

情報科学、情報工学の基盤となる、コンピュータアーキテクチャとシステムソフトウェアは勿論のこと、コンピューティングの基盤となる計算理論・設計最適化・プログラミング言語および方法論、および、未来のコンピューティングの礎となる新原理コンピューティングまで含めた新しい基盤技術に対応する、高度情報社会を支える情報システムの研究開発、及び新しいコンピューティング環境の創出を担う人材を育成する。

この講座においては、コンピュータシステム分野（プログラミング、ディペンダブルシステム、再構成可能システム、組み込みシステム、システムアーキテクチャ、ハイパフォーマンス・アダプティブコンピューティング、AI・IoT・スマートファクトリー・DXへの応用）、計算・設計理論分野（論理設計・システム開発、設計最適化・自動化、ソフトウェア工学、プログラミング言語）、新原理コンピューティング開拓分野（近似・ストカスティックコンピューティング、量子コンピューティング、可逆論理、デジタルアニーラー、イジングモデル・マシン）等の教育・研究を行う。

②コミュニケーション分野

情報通信の基盤となるインターネット、モバイル通信、デジタル放送等の最新技術は勿論のこと、情報通信によって生み出される人同士のコミュニケーションまで含めた新しい基盤技術に対し、世の中の変化に対応した新たな価値を創造する人材を育成する。

この講座においては、次世代ネットワーク技術分野（次世代ネットワーク（Beyond5G）、モバイルネットワーク、クラウドシステム、SDN/NFV、インターネットサービス（コンテンツ配信・ストリーミング）、IoTネットワーク）、セキュリティ技術分野（暗号、電子署名、ブロックチェーン、秘密分散、ユーザ認証、バイオメトリクス、プライバシー保護、

著作権保護、コンテンツセキュリティ、サイバーテロ対策)、 ネットワーク科学分野 (知性ネットワーク、ネットワーク数理学、ネットワークダイナミクス、複雑ネットワーク分析) などの情報工学におけるコミュニケーション技術の教育・研究を行う。

③センシング分野

自然環境や電波環境をモニタリングするワイヤレスセンシング、リモートセンシング等に関する最新技術は勿論のこと、情報収集・配信の基盤となるネットワークソフトウェア技術、およびワイヤレスネットワーク、ノンテレストリアルネットワーク等の無線通信技術に加え、様々な情報の計測値 (物理量) を変換する素子やデバイスであるセンサシステムに関する知識を習得させ、次世代のセンシング技術に対応できる人材を育成する。

この分野においてはあらゆるモノ、情報、機能を結合・共有するネットワークシステムに関する技術、センサから得られた膨大な情報の処理や分析に関するソフトウェア技術、先進センサシステムに関する材料やデバイスの技術の研究・教育を行う。

2026年度 博士前期課程（情報工学専攻） カリキュラム

授 業 科 目 の 名 称		担 当 教 員	配当 年次	期別	単位数		
					必修	選択	自由
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論A（人文・社会科学）	准 教 授 上 尾 真 道	1・2	前期		2	
	人間論B（自然科学）	非 常 勤 講 師 曾 雌 崇 弘	1・2	前期		2	
	国際関係と平和	特 任 教 授 石 田 淳	1・2	後期		2	
	ヒロシマと核の時代	教 授 佐 藤 史 郎	1・2	前期		2	
	日本論	准 教 授 山 口 え り	1・2	前期		2	
	研究倫理	特 任 教 授 河 合 孝 尚	1・2	後期		2	
	情報と社会	非 常 勤 講 師 河 又 貴 洋 俊 桑 原	1・2	前期		2	
	道具論	(不開講)	1・2	後期		2	
	都市論	(不開講)	1・2	後期		2	
研 究 科 開 設 科 目	論理回路・システム特論	准 教 授 ルカック・ マーティン	1・2	後期		2	
	情報物性特論	准 教 授 八 方 直 久 真 講 師 藤 原	1・2	前期		2	
	計算機支援設計特論	(不開講)	1・2	前期		2	
	* 回路設計自動化特論	教 授 市 原 英 行 准 教 授 稲 木 雅 人	1・2	後期		2	
	* コンピュータアーキテクチャ特論	教 授 弘 中 哲 夫	1・2	前期		2	
	プログラミング言語特論	准 教 授 川 端 英 之 准 教 授 上 土 井 陽 子	1・2	後期		2	
	情報通信システム特論	准 教 授 高 橋 賢	1・2	前期		2	
	情報通信方法特論	准 教 授 舟 阪 淳 一 准 教 授 小 林 真	1・2	後期		2	
	* 通信工学特論	教 授 西 正 博 講 師 新 浩 一	1・2	後期		2	
	情報ネットワーク特論	(不開講)	1・2	前期		2	
	* ネットワークソフトウェア特論	教 授 大 田 知 行	1・2	前期		2	
	マルチメディア情報通信特論	准 教 授 稲 村 勝 樹	1・2	前期 (第1ターム)		2	
	システムレベル設計検証特論	教 授 市 原 英 行 講 師 谷 川 一 哉	1・2	前期		2	
	* 通信トラヒック特論	教 授 高 野 知 佐 教 授 小 畑 博 靖	1・2	後期		2	
情報伝送方式特論	准 教 授 桑 田 精 一 准 教 授 神 尾 武 司	1・2	前期 (第1ターム)		2		

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配当 年次	期別	単位数		
				必修	選択	自由
計算量理論特論	教 授 内 田 智 之 講 師 鈴 木 祐 介	1・2	前期		2	
学習システム特論	(不開講)	1・2	後期		2	
画像メディア工学特論	准 教 授 宮 崎 大 輔 講 師 岩 口 堯 史	1・2	前期		2	
ヒューマンコンピュータインタラクション特論	講 師 マーク・アウレル・カストナー	1・2	後期		2	
マルチメディアデータベース特論	准 教 授 黒 木 進	1・2	後期		2	
確率の情報処理特論	教 授 三 村 和 史	1・2	後期		2	
計算知能特論	准 教 授 鎌 田 真 准 教 授 白 石 充 梓	1・2	前期		2	
知能ロボティクス特論	教 授 池 田 徹 志	1・2	前期 (第2ターム)		2	
知的情報検索特論	准 教 授 梶 山 朋 子 准 教 授 河 田 人 美	1・2	後期 (第3ターム)		2	
知能数理特論A	教 授 齋 藤 夏 雄	1・2	前期		2	
知能数理特論B	准 教 授 関 根 光 弘 講 師 佐 藤 倫 治	1・2	後期		2	
数理科学特論A	教 授 田 中 輝 雄	1・2	前期 (第1ターム)		2	
数理科学特論B	准 教 授 廣 門 正 行 准 教 授 岡 山 友 昭	1・2	前期		2	
情報工学特別演習Ⅰ	担当全教員	1・2	前期	2		
情報工学特別演習Ⅱ	担当全教員	1・2	後期	2		
情報工学特別演習Ⅲ	担当全教員	1・2	前期	2		
情報工学特別演習Ⅳ	担当全教員	1・2	後期	2		
Advanced SeminarⅤ (注)	担当全教員	1・2	通年		2	
Advanced SeminarⅥ (注)	担当全教員	1・2	通年		2	
情報科学特別基礎講義	教 授 市 原 英 行 ほか	1・2	前期		2	
情報科学特別実践講義	教 授 小 野 貴 彦 ほか	1・2	前期		2	
プロジェクト演習Ⅰ	専攻長ほか	1・2	前期		1	
プロジェクト演習Ⅱ	専攻長ほか	1・2	後期		1	
インターンシップⅠ	担当全教員	1・2	集中		2	
インターンシップⅡ	担当全教員	1・2	集中		2	

(注) 「ダブル・マスター・ディグリー」専用科目のため、通常の学生は履修できません。

知能工学専攻の教育・研究内容・カリキュラム

1 教育課程編成方針及び特色

情報システムの高度化、知能化、マルチメディア化の進展により知識基盤社会が進むなかで、より高度な専門的学識と技術を初めとして、人間の知能に限りなく近い高度な知能情報システムの構築を可能とする人材の育成がより重要になると考えられる。このような時代背景のもとに本専攻においては、知識基盤社会における人間の知的なコミュニケーション行為や情報行為（人間が問題解決のために実施する情報の収集・取捨選択・加工・伝達などの情報行動）をコンピュータ支援するために、高度な知能情報処理およびそのシステム化に焦点を当てた高度な専門教育を実施する。

本専攻は、知能情報処理の理論的基礎のうえに、社会にあふれる膨大なデータから価値を引き出すことを目指すデータ科学分野、人間の情報処理の仕組みを利用して高度な応用システムを開発することを目指す人間情報学分野、人間の知的な処理の仕組みを解明して高度な情報処理システムを作ることを目指す知能情報学分野の3つの分野から構成される。

以上の分野において、人工知能やコンピュータサイエンスの側面からの教育・研究を行う。これにより、人間の知的能力・機能の解明と人間の知能に限りなく近い高度な知能情報システムの開発という重要な課題に取り組むことができる人材を育成する。また、指定された科目を履修することにより、高校の数学または情報の教員免許を取得することも可能となっている。

2 教育・研究分野

知能工学専攻が教育・研究の対象とする分野は、人工知能に関する情報科学の基礎技術、人間の知能に限りなく近い高度な知能情報システムの構築に必要な要素技術、そしてこれらの要素技術を組み合わせた知識処理応用やマルチメディア処理応用などからなる。本専攻では、データ科学分野、人間情報学分野、知能情報学分野の3つの分野で教育・研究を行う。

(1) データ科学分野

データ科学分野では、社会にあふれる膨大なデータから価値を引き出すことを目指して、データの分析や、データからの知識の抽出、必要となる数理に関する分野などへ展開する。特に、並列分散処理や制約処理の最適化等によりビッグデータ等を効率的に処理し人間にとって有用な規則や知識を抽出するデータマイニングを扱う分野、構造を有するデータの分類手法を扱う分野、数理モデル化やデータ解析技術などを扱う分野を中心に教育・研究を進める。

この分野における学習を通して、並列分散処理、データマイニング、およびそれらの数理基盤などを修得し、データの活用や、知識基盤社会で必要となる数理的手法の活用ができる人材を育成する。

(2) 人間情報学分野

人間情報学分野では、人間の情報処理の仕組みを利用して高度な応用システムを

開発することを目指して、感性や、社会情報、マルチエージェントを扱う分野などへ展開する。特に、人にやさしく実用性の高い知的情報処理技術を高度化するためのコンピュータによる学習支援を扱う分野、ビッグデータ社会におけるメディア処理とユーザエクスペリエンスを扱う分野、数理的モデル化技術の高度化を目指した生物進化に基づく進化的計算や群知能に基づく最適化技術を扱う分野を中心に教育・研究を進める。

この分野の学習を通して、知識情報処理の技法、知的情報検索エンジン、エージェント、発見的探索手法などを修得し、知識基盤社会に重要なメディア情報処理システムを開発できる人材を育成する。

(3) 知能情報学分野

知能情報学分野では、人間の知的な処理の仕組みを解明して高度な情報処理システムを作ることを目指して、言語や視覚などのマルチモーダル処理や、情報の推論に関する分野などへ展開する。特に、画像・音声などのメディアを中心とする知的情報処理技術を高度化するための画像処理とコンピュータグラフィックスを扱う分野、音声・言語処理を扱う分野、統計的情報処理に基づく推論技術を扱う分野を中心に教育・研究を進める。

この分野の学習を通して、知能情報処理に対応できる知識や技術、画像や言語などのメディア処理システムの開発技法、機械学習などを修得し、知識基盤社会に重要な知能情報システムを開発できる人材を育成する。

2026年度 博士前期課程（知能工学専攻） カリキュラム

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年 次	期 別	単 位 数		
				必 修	選 択	自 由
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論 A（人文・社会科学）	准 教 授 上 尾 真 道	1・2	前期		2
	人間論 B（自然科学）	非 常 勤 講 師 曾 雌 崇 弘	1・2	前期		2
	国際関係と平和	特 任 教 授 石 田 淳	1・2	後期		2
	ヒロシマと核の時代	教 授 佐 藤 史 郎	1・2	前期		2
	日本論	准 教 授 山 口 え り	1・2	前期		2
	研究倫理	特 任 教 授 河 合 孝 尚	1・2	後期		2
	情報と社会	非 常 勤 講 師 河 又 貴 洋 桑 原 俊	1・2	前期		2
	道具論	(不開講)	1・2	後期		2
	都市論	(不開講)	1・2	後期		2
研 究 科 開 設 目	* 知識工学特論	教 授 松 原 行 宏 准 教 授 毛 利 考 佑 講 師 岡 本 勝	1・2	前期		2
	* 知識ベース特論	教 授 田 村 慶 一	1・2	前期		2
	計算知能特論	准 教 授 鎌 田 真 准 教 授 白 石 充 梓	1・2	前期		2
	* 推論方式特論	教 授 原 章	1・2	前期		2
	* 計算量理論特論	教 授 内 田 智 之 講 師 鈴 木 祐 介	1・2	前期		2
	学習システム特論	(不開講)	1・2	後期		2
	マルチメディアデータベース特論	准 教 授 黒 木 進	1・2	後期		2
	知的情報検索特論	准 教 授 梶 山 朋 子 准 教 授 河 田 人 美	1・2	後期 (第3ターム)		2
	* 確率的情報処理特論	教 授 三 村 和 史	1・2	後期		2
	ネットワークソフトウェア特論	教 授 大 田 知 行	1・2	前期		2
	画像メディア工学特論	准 教 授 宮 崎 大 輔 講 師 岩 口 堯 史	1・2	前期		2
	* 言語音声メディア工学特論	教 授 竹 澤 寿 幸 准 教 授 目 良 和 也	1・2	前期		2
	コンピュータグラフィックス特論	非 常 勤 講 師 馬 場 雅 志	1・2	前期		2
* パターン認識特論	教 授 岩 田 一 貴 准 教 授 下 川 丈 明	1・2	後期		2	
* 知能数理特論 A	教 授 齋 藤 夏 雄	1・2	前期		2	

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年 次	期 別	単 位 数		
				必 修	選 択	自 由
知能数理特論B	准 教 授 関 根 光 弘 講 師 佐 藤 倫 治	1・2	後期		2	
ヒューマンコンピュータインタラクション特論	講 師 マーク・アウレ ル・カストナー	1・2	後期		2	
組込みアーキテクチャ設計・ソフトウェア設計特論	教 授 中 田 明 夫	1・2	前期		2	
数理科学特論A	教 授 田 中 輝 雄	1・2	前期 (第1ターム)		2	
数理科学特論B	准 教 授 廣 門 正 行 准 教 授 岡 山 友 昭	1・2	前期		2	
マルチメディア情報通信特論	准 教 授 稲 村 勝 樹	1・2	前期 (第1ターム)		2	
情報通信方法特論	准 教 授 舟 阪 淳 一 准 教 授 小 林 真	1・2	前期 (第1ターム)		2	
計算機支援設計特論	教 授 井 上 智 生	1・2	前期		2	
情報伝送方式特論	准 教 授 桑 田 精 一 准 教 授 神 尾 武 司	1・2	後期		2	
知能ロボティクス特論	教 授 池 田 徹 志	1・2	前期 (第2ターム)		2	
知能工学特別演習Ⅰ	担 当 全 教 員	1・2	前期	2		
知能工学特別演習Ⅱ	担 当 全 教 員	1・2	後期	2		
知能工学特別演習Ⅲ	担 当 全 教 員	1・2	前期	2		
知能工学特別演習Ⅳ	担 当 全 教 員	1・2	後期	2		
Advanced SeminarⅤ (注)	担 当 全 教 員	1・2	通年		2	
Advanced SeminarⅥ (注)	担 当 全 教 員	1・2	通年		2	
情報科学特別基礎講義	教 授 市 原 英 行 <small>ほか</small>	1・2	前期		2	
情報科学特別実践講義	教 授 小 野 貴 彦 <small>ほか</small>	1・2	前期		2	
プロジェクト演習Ⅰ	専攻長ほか	1・2	前期		1	
プロジェクト演習Ⅱ	専攻長ほか	1・2	後期		1	
インターンシップⅠ	担 当 全 教 員	1・2	集中		2	
インターンシップⅡ	担 当 全 教 員	1・2	集中		2	

(注) 「ダブル・マスター・ディグリー」専用科目のため、通常の学生は履修できません。

システム工学専攻の教育・研究内容・カリキュラム

1 教育課程編成方針及び特色

情報化技術の飛躍的な発展が、現在の経済活動や生活様式などを大きく変え、社会構造の変革をもたらしている。このような情報技術をさらに発展させ、人間、機械、コンピュータが有機的に結合した高度で柔軟性の高いシステムを開発するため、より高い専門性を備えた技術者および研究者が求められている。

本専攻では学部での教育・研究を基礎として、システムを構成する個別要素技術や、それらを有機的に結合するためのインタフェース、運用に必要な情報を交換するための情報通信技術、最適運用するための設計・制御手法、実時間処理を可能にする組込みシステム、システムの高信頼化などの個別技術をさらに深く探求するとともに、より広範な価値観の基でシステム全体の調和と相乗効果を高めるための統合化技術についての教育・研究を行う。すなわち、人間、機械、コンピュータが協調し、人にやさしいシステムの開発に結びつく、萌芽的研究や開発研究をすすめることのできる技術者および研究者の育成を目指す。

これらのシステム工学に関する技術的問題解決能力に加えて、社会との関わりを常に意識し、広い視野を持った、創造的かつ実践的な技術者、研究者を育成する。また、社会の要請の変化や学術の急速な発展などに柔軟対応できる能力を涵養するため、既存の学問分野や専攻の枠を超えた幅広い教育・研究支援体制のもとで教育指導にあたる。あわせて専門分野での学会発表を目標の1つと位置づけ、目的意識の発揚を促し、研究意欲を高めるように配慮する。

2 教育・研究分野

システム工学専攻では、コンピュータや機械などを個別に開発するだけでなく、利用する人間も含めた人間、機械、コンピュータ全体を1つのシステムと捉え、各要素が有機的に結合した高度で柔軟性の高いシステムを開発し、人類が快適で理想的な社会を作るためのシステムの実現を目指す。以下の3つの分野を設置し、そのようなシステムの実現のための研究・開発や、それを担う人材を育成するための教育を行う。

(1) 数理システムデザイン分野

本分野では、人間や機械と共生する情報システムの構築のための基盤となる数理モデルや情報理論、電子物性、ソフトウェア設計、情報セキュリティ技術などの知識・スキルを備えた人材を育成する。また、次世代コンピュータとして期待される量子コンピュータの実現に資する量子情報理論や量子通信なども取り扱う。

そのために本分野では、数理システム、システム最適化、数値解析、確率過程などの情報数理の基礎事項を習得させ、数学と情報科学の立場からの複眼的視点で現象を捉え、解析する能力を養成し、高度な応用システム開発に必要な数理的能力を身につけさせる教育を行う。また、IoTデバイスを用いた組込みシステムの開発や、信頼性の高い情報通信のための暗号技術や情報セキュリティ技術、高度なアルゴリズムの設計と評価、量子情報技術などに関する研究活動を通じて、深い先進技術開発と幅広い展開能力を両立できる人材の育成・研究を行う。

(2) 人間・ロボット共生分野

本分野では、人間とロボットとの共生社会に向けて、人間が安全・安心・快適な生活を送るためのロボットシステムの開発を担う人材を育成する。少子化による労働者人口の減少が見込まれる中で、また、地場産業である自動車・製造装置・工作機械産業を支え発展させるためには、産業系ロボットやロボット応用システムを開発できる能力を備えた人材が社会から求められている。また、超高齢化社会に向けた介護・福祉・リハビリのためのロボット技術・コミュニケーション技術が必要である。

これらの社会からのニーズに応えられる人材を育成するため、本分野ではまず、ロボティクス・システム制御・システム推定・インテリジェント制御など、ロボットに関連するさまざまな分野の基礎を教育する。さらに、介護支援ロボット・福祉ロボット・救急搬送支援機器・リハビリ機器・パワーアシストなどのロボット応用システムや、ヒューマンロボットインタラクションやAR/VRなどといったエンターテインメント・コミュニケーションのための応用技術などの研究を通して、深い先進技術開発と幅広い展開能力を両立できる人材を育成する。

(3) インタフェースデザイン分野

現在、家電・スマートフォン・各種ロボット・自動運転車両など、さまざまなコンピュータシステムが我々の身の回りに溢れている。本分野では、人間がこれらのコンピュータシステムを直感的かつ容易に操作できること、あるいは、人間が操作を意識しなくてもコンピュータシステムが我々の状況や意図を理解して動作することで、安心して快適な生活を実現するインタフェースの設計と実装を行うことのできる人材を育成する。

そのために本分野ではまず、信号処理・ヒューマンインタフェース・人間工学・音響工学などに関する基礎技術を教育する。さらに、人間とコンピュータを有機的かつユビキタスに結合するための高度な信号処理技術、人間の状態や意図を理解するための画像・音声認識技術、快適さやパフォーマンスを向上させるための音響技術などの研究活動を通じて、複雑かつ高度なシステムへの新たな展開にこれらの基礎技術を応用できる能力を養成する。

2026年度 博士前期課程（システム工学専攻） カリキュラム

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配当 年次	期別	単位数			
				必修	選択	自由	
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論A（人文・社会科学）	准 教 授 上 尾 真 道	1・2	前期		2	
	人間論B（自然科学）	非常勤講師 曾 雌 崇 弘	1・2	前期		2	
	国際関係と平和	非常勤講師 石 田 淳	1・2	後期		2	
	ヒロシマと核の時代	教 授 佐 藤 史 郎	1・2	前期		2	
	日本論	准 教 授 山 口 えり	1・2	前期		2	
	研究倫理	特 任 教 授 河 合 孝 尚	1・2	後期		2	
	情報と社会	非常勤講師 河 又 貴 洋 桑 原 俊	1・2	前期		2	
	道具論	(不開講)	1・2	後期		2	
	都市論	(不開講)	1・2	後期		2	
研 究 科 開 設 科 目	* ロボットビジョン特論	教 授 李 仕 剛	1・2	前期 (第1ターム)		2	
	* インテリジェント制御特論	教 授 小 寄 貴 弘	1・2	前期 (第1ターム)		2	
	* システム推定学特論	教 授 小 野 貴 彦	1・2	後期 (第3ターム)		2	
	* 知能ロボティクス特論	教 授 池 田 徹 志	1・2	前期 (第2ターム)		2	
	情報伝送方式特論	准 教 授 桑 田 精 一 准 教 授 神 尾 武 司	1・2	前期 (第1ターム)		2	
	* 組込みアーキテクチャ設計・ソフトウェア設計特論	教 授 中 田 明 夫	1・2	前期		2	
	マルチメディア情報通信特論	准 教 授 稲 村 勝 樹	1・2	前期 (第1ターム)		2	
	学習システム特論	(不開講)	1・2	後期		2	
	ネットワークソフトウェア特論	教 授 大 田 知 行	1・2	前期		2	
	計算機支援設計特論	教 授 井 上 智 生	1・2	前期		2	
	計算知能特論	准 教 授 鎌 田 真 梓 准 教 授 白 石 充 梓	1・2	前期		2	
	マルチメディアデータベース特論	准 教 授 黒 木 進	1・2	後期		2	
	知的情報検索特論	准 教 授 梶 山 朋 子 准 教 授 河 田 人 美	1・2	後期 (第3ターム)		2	
	組込みソフトウェア実装・シミュレーション特論	准 教 授 村 田 佳 洋	1・2	前期 (第1ターム)		2	
	ソフトウェア品質評価特論	准 教 授 島 和 之	1・2	後期 (第4ターム)		2	
	* 音響システム特論	教 授 石 光 俊 介	1・2	前期		2	
	ヒューマンコンピュータインタラクション特論	講 師 マーク・アウレル・カストナー	1・2	後期		2	
	バーチャルリアリティ特論	准 教 授 脇 田 航	1・2	前期		2	
情報通信方法特論	准 教 授 舟 阪 淳 一 准 教 授 小 林 真	1・2	後期		2		
視覚情報学特論	(不開講)	1・2	後期		2		

授 業 科 目 の 名 称		担 当 教 員	配 当 年 次	期 別	単 位 数		
					必 修	選 択	自 由
研 究 科 開 設 科 目	暗号と情報セキュリティ特論	准 教 授 双 紙 正 和	1・2	後期 (第3ターム)		2	
	* 数理科学特論A	教 授 田 中 輝 雄	1・2	前期 (第1ターム)		2	
	数理科学特論B	准 教 授 廣 門 正 行 准 教 授 岡 山 友 昭	1・2	前期		2	
	知能数理特論A	教 授 齋 藤 夏 雄	1・2	前期		2	
	知能数理特論B	准 教 授 関 根 光 弘 講 師 佐 藤 倫 治	1・2	後期		2	
	確率の情報処理特論	教 授 三 村 和 史	1・2	後期		2	
	計算量理論特論	教 授 内 田 智 之 介 講 師 鈴 木 祐 介	1・2	前期		2	
	認識システム特論	准 教 授 中 山 仁 史	1・2	後期		2	
	製品企画プロジェクト特別演習	教 助 教 中 田 明 夫 教 佐 藤 康 臣	1・2	後期		1	
	組込みソフトウェア実装特別演習	准 教 授 村 田 佳 洋 助 教 佐 藤 康 臣	1・2	前期 (第2ターム)		1	
	システム工学特別演習Ⅰ	担当全教員	1・2	前期	2		
	システム工学特別演習Ⅱ	担当全教員	1・2	後期	2		
	システム工学特別演習Ⅲ	担当全教員	1・2	前期	2		
	システム工学特別演習Ⅳ	担当全教員	1・2	後期	2		
	Advanced SeminarⅤ (注)	担当全教員	1・2	通年		2	
	Advanced SeminarⅥ (注)	担当全教員	1・2	通年		2	
	情報科学特別基礎講義	教 授 市 原 英 行 <small>ほか</small>	1・2	前期		2	
	情報科学特別実践講義	教 授 小 野 貴 彦 <small>ほか</small>	1・2	前期		2	
	医用ロボット学特論	准 教 授 長 谷 川 義 大	1・2	後期			2
	プロジェクト演習Ⅰ	専攻長ほか	1・2	前期		1	
プロジェクト演習Ⅱ	専攻長ほか	1・2	後期		1		
インターンシップⅠ	担当全教員	1・2	集中		2		
インターンシップⅡ	担当全教員	1・2	集中		2		

(注) 「ダブル・マスター・ディグリー」専用科目のため、通常の学生は履修できません。

医用情報科学専攻の教育・研究内容・カリキュラム

1 教育課程編成方針及び特色

科学技術の発展及び高齢化社会の到来に伴い、我が国を取り巻く産業・社会構造は、年々複雑化し続けている。科学・産業構造においては、従来の単一専門分野構造から、学際的な異分野が複雑に絡み合った融合形態へとシフトし、これにより高度で知的な産業製品が生みだされている。一方、高度高齢化社会に向けた取り組みとしては、「健康管理・医療・福祉」を軸とする新たな健康医療サービス・医用診断システムなどが、高機能化・高付加価値化を目指し日々絶え間なく進化している。また、上記医療福祉産業構造に対応すべく、「情報」「医学」「科学・工学」などの専門分野が融合した「医用工学」「医用情報科学」といった新たな学際的学問分野が誕生している。

上記社会的背景を鑑み、医用情報科学専攻では、複雑化の一途をたどる社会構造変化に柔軟に対応できる人材の育成を目指し、それに根差した教育課程を編成している。具体的には、「情報」「自然科学」「工学」の3分野を医用情報科学の基礎と位置付けるとともに体系化し、かつそれらを「医用情報科学」という枠組みで実践的に応用展開することで、複雑化をまず学際的異分野領域において、柔軟に対応できる人材、すなわち複雑領域における問題提起、問題解決できる人材を養成する。

2 教育・研究分野

医用情報科学専攻では、複雑化し続ける「健康管理・医療・福祉」産業構造に対応すべく、「バイオ情報学」、「医用画像工学」、「医用ロボット」、「脳情報科学」、「医用情報通信」の5つの専門分野を設け、更にこれらが連携することで医用情報科学、生体情報科学に関する専門知識・技術の体系的な教育・研究を行う。また実践的な演習や研究を通して自ら問題を発見し解決する能力を養成する。具体的な内容を以下に示す。

- (1) バイオ情報学では生命活動の本質を探究する教育研究を行う。生命の構造・機能を司るDNA、アミノ酸、タンパク質等の生体高分子が織りなす仕組みの解明を目指し、最先端の計算機科学・実験科学からなる多様な生化学的解析方法を開発する教育研究を行う。
- (2) 医用画像工学では最適な診断・治療支援を探究する教育研究を行う。医学・医療現場において爆発的に増加している医療情報に対し、画像情報処理技術を駆使して、最適な診断・治療支援方法を設計・開発に加えて、医療費削減を目的に各種医用画像から価値ある情報を取り出す教育研究を行う。
- (3) 医用ロボットでは医療・福祉デバイスシステムを探究する教育研究を行う。情報工学・機械工学・電子電気工学の融合を図り、機械的なアプローチで不可能を可能にする新規な医療・福祉デバイスシステムを開発する教育研究を行う。
- (4) 脳情報科学では脳機能の解明及びその応用を探究する教育研究を行う。生命活動の源である脳機能の解明を目指し、実験科学的なアプローチによる脳機能計測ならびにそれを応用した新たな医療・福祉支援システムを開発する教育研究を行う。
- (5) 医用情報通信では日常生活と先端医療との繋がりを探究する教育研究を行う。個人が、いつでも、どこでも先端医療とつながっている安心な社会を目指し、情報通信技術、データ解析技術等を駆使して人間と医療・福祉とを繋げる教育研究を行う。

また、医用情報科学専攻では、本専攻の独自開設科目に加え、他専攻で開設される科目も併せて学習することで、学際・融合領域である医用情報科学技術に強い専門技術者を養成する。

以上のように、医用情報科学専攻では、従来の学問体系にとらわれない、「医用情報科学」という新たな学際的学問領域の教育研究を行う。

2026年度 博士前期課程（医用情報科学専攻） カリキュラム

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配当 年次	期別	単位数		
				必修	選択	自由
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論A（人文・社会科学）	准 教 授 上 尾 真 道	1・2	前期		2
	人間論B（自然科学）	非 常 勤 講 師 曾 雌 崇 弘	1・2	前期		2
	国際関係と平和	特 任 教 授 石 田 淳	1・2	後期		2
	ヒロシマと核の時代	教 授 佐 藤 史 郎	1・2	前期		2
	日本論	准 教 授 山 口 え り	1・2	前期		2
	研究倫理	特 任 教 授 河 合 孝 尚	1・2	後期		2
	情報と社会	非 常 勤 講 師 河 又 貴 洋 俊 桑 原 俊	1・2	前期		2
	道具論	(不開講)	1・2	後期		2
	都市論	(不開講)	1・2	後期		2
研 究 科 開 設 科 目	* バイオ情報学特論	教 授 鷹 野 優 准 教 授 釘 宮 章 光	1・2	後期		2
	生物情報処理特論	准 教 授 釘 宮 章 光 准 教 授 香 田 次 郎 准 教 授 齋 藤 徹	1・2	前期		2
	視覚情報学特論	(不開講)	1・2	後期		2
	光計測システム特論	准 教 授 藤 原 久 志	1・2	前期		2
	生体情報学特論	(不開講)	1・2	前期		2
	生体計測工学特論	准 教 授 常 盤 達 司	1・2	後期		2
	* 医用情報通信特論	教 授 田 中 宏 和 講 師 伊 藤 孝 弘	1・2	前期 (第1ターム)		2
	* 生体システム工学特論	教 授 福 田 浩 士	1・2	前期		2
	* マイクロ医用工学特論	教 授 式 田 光 宏	1・2	後期 (第3ターム)		2
	* 生体機能画像解析学特論	教 授 松 本 圭 一	1・2	前期 (第2ターム)		2
	医用ロボット学特論	准 教 授 長 谷 川 義 大	1・2	後期		2
	論理回路・システム特論	准 教 授 ルカック・ マーティン	1・2	後期		2
	コンピュータアーキテクチャ特論	教 授 弘 中 哲 夫	1・2	前期		2
マルチメディア情報通信特論	准 教 授 稲 村 勝 樹	1・2	前期 (第1ターム)		2	

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年次	期 別	単 位 数		
				必 修	選 択	自 由
情報通信方法特論	准 教 授 舟 阪 淳 一	1・2	後期		2	
	准 教 授 小 林 真					
ネットワークソフトウェア特論	教 授 大 田 知 行	1・2	前期		2	
計算機支援設計特論	(不開講)	1・2	前期		2	
計算知能特論	准 教 授 鎌 田 真	1・2	前期		2	
	准 教 授 白 石 充 梓					
情報伝送方式特論	准 教 授 桑 田 精 一	1・2	前期 (第1ターム)		2	
	准 教 授 神 尾 武 司					
マルチメディアデータベース特論	准 教 授 黒 木 進	1・2	後期		2	
知的情報検索特論	准 教 授 梶 山 朋 子	1・2	後期 (第3ターム)		2	
	准 教 授 河 田 人 美					
確率的情報処理特論	教 授 三 村 和 史	1・2	後期		2	
知能ロボティクス特論	教 授 池 田 徹 志	1・2	前期 (第2ターム)		2	
知能数理特論A	教 授 齋 藤 夏 雄	1・2	前期		2	
知能数理特論B	准 教 授 関 根 光 弘 講 師 佐 藤 倫 治	1・2	後期		2	
数理科学特論A	教 授 田 中 輝 雄	1・2	前期 (第1ターム)		2	
数理科学特論B	准 教 授 廣 門 正 行 准 教 授 岡 山 友 昭	1・2	前期		2	
医用情報科学特別演習Ⅰ	担当全教員	1・2	前期	2		
医用情報科学特別演習Ⅱ	担当全教員	1・2	後期	2		
医用情報科学特別演習Ⅲ	担当全教員	1・2	前期	2		
医用情報科学特別演習Ⅳ	担当全教員	1・2	後期	2		
Advanced SeminarⅤ (注)	担当全教員	1・2	通年		2	
Advanced SeminarⅥ (注)	担当全教員	1・2	通年		2	
情報科学特別基礎講義	教 授 市 原 英 行 <small>ほか</small>	1・2	前期		2	
情報科学特別実践講義	教 授 小 野 貴 彦 <small>ほか</small>	1・2	前期		2	
プロジェクト演習Ⅰ	専攻長ほか	1・2	前期		1	
プロジェクト演習Ⅱ	専攻長ほか	1・2	後期		1	
インターンシップⅠ	担当全教員	1・2	集中		2	
インターンシップⅡ	担当全教員	1・2	集中		2	

(注) 「ダブル・マスター・ディグリー」専用科目のため、通常の学生は履修できません。

教育職員免許状について

1 専修免許状とは

専修免許状とは、一種免許状を現に有し、または一種免許状を取得するのに必要な単位をすでに修得し、修士の学位を有する者に授与される、上級の免許状です。

2 本学大学院において取得できる教育職員免許状の種類

中学校教諭一種免許状又は高等学校教諭一種免許状を取得している人は、免許状の種類に応じて専修免許状を取得することができます。本学大学院が認定を受けている専修免許状の種類は、次のとおりです。

大学院	専攻	中学校教諭	高等学校教諭
国際学研究科 博士前期課程	国際学専攻	英語 社会	英語 地理歴史 公民
情報科学研究科 博士前期課程	情報工学専攻 知能工学専攻 システム工学専攻		数学 情報
	医用情報科学専攻		情報
芸術学研究科 博士前期課程	造形芸術専攻	美術	美術 工芸

3 免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

「教育職員免許法」に定める法律上の最低修得単位数は、次のとおりです。本学大学院では、各研究科の定めるところにより、指定授業科目から24単位以上を修得する必要があります。

免許状の種類	基礎資格	最低修得単位数	備考
専修	修士の学位を有すること	83	24単位(83-59)以上 を大学院で修得する
一種	学士の学位を有すること	59	

4 指定授業科目

在学する研究科の履修案内(巻末資料・別表)を確認し、自専攻開講科目から指定授業科目24単位以上を修得してください。

5 取得・申請方法

大学院で必要な単位を修得し、都道府県の教育委員会に申請することで授与されます。

3月修了予定者については、本人に代わって本学が広島県教育委員会に申請します(一括申請)。修了予定年度の10月に開催される教員免許状申請ガイダンスに必ず出席し、必要な手続きを行ってください。免許状申請には、1件につき3,400円の手数料がかかります。

広島県教育委員会から授与された免許状は、修了式当日に交付します。

博士後期課程の履修等について

1 指導教員の選定

- (1) 博士後期課程の学生は、複数の指導教員の指導を受けることができ、主指導教員の所属する研究指導単位に所属しますが、副指導教員が所属する研究指導単位でのセミナーやプロジェクト研究に自由に参加することができます。
- (2) 学生は、指導教員と他研究科の許可を受けて、研究科を超えてプロジェクト研究やセミナーに参加したり、又は研究科教授の指導のもとで、他研究科と共同のプロジェクト研究を主宰することができます。
- (3) 芸術学研究科の教員に「アドバイザー教員」となっていただき、アドバイスを指導を受けることができます。

アドバイザー教員を希望する学生は、随時、主指導教員とアドバイスを受けた教員の承諾を得た上で、「アドバイザー教員希望届」を提出してください。

2 修了必要単位数

修了必要単位数は、主指導教員による情報科学講究Ⅰ及び副指導教員による情報科学講究Ⅱを含む10単位です。

また、学術交流協定等により、あらかじめ相互に合意を得ている他大学院で修得した単位は、6単位を超えない範囲で認定することができます。

3 修了要件

大学院に5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文を提出し、その審査と最終学力試験に合格する必要があります。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を挙げた者については、大学院に3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上の在学をもって修了を認めることがあります。

4 学位

(1) 課程博士

博士後期課程の修了要件を満たす見込みのあるものは、「広島市立大学学位規程」の規定に基づき、学位の審査を受けることができます。

研究科委員会は、所定の期日までに審査願とともに提出・受理された論文について、審査委員会を構成し、審査委員会の最終試験の結果に基づき、学位審査を行います。

(2) 学位は下記の名称とします。

「博士（情報科学）」又は「博士（情報工学）」

〈学位授与方針〉

情報科学研究科は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の分野において、極めて高度な専門的知識・技能・能力を身につけたうえで、博士学位論文を提出して審査に合格した学生に対して修了を認定し、博士（情報科学又は情報工学）の学位を授与します。

- ・コンピュータ技術、ネットワーク技術、それらの融合技術及び運用技術分野
- ・人間の知的活動を支援する知的情報システム技術分野
- ・効率・環境・安全などの多様な価値観のもとで調和と協調を図ったシステム技術分野
- ・情報通信技術と医用情報、生体情報、光・電子計測との融合技術分野

〈論文審査基準〉

論文の審査に当たっては、以下の観点に基づき、総合的に判定を行います。

1. 新規性

論文の内容が、公知あるいは既知のことから容易に導き出せるものではなく、従来にない新しいものであること。

2. 有効性

研究テーマや問題の設定に妥当性があり、得られた結果が学術や産業の発展に何らかの意味で役に立つものであること。

3. 信頼性

先行研究や関連資料を十分に踏まえ、研究目的を達成するために適切な方法が用いられていること。また、論文の内容や引用等が、信頼のおけるものであること。

4. 了解性

本論の展開が、十分理解し易く明瞭に記述されていること。文章に合理性があり、博士学位論文としての体裁が守られていること。

博士後期課程における進学又は入学から学位授与までの過程について

- (1) 博士課程研究題目届提出、研究科委員会による審査
- (2) 博士学位論文の予備審査申請
- (3) 研究科委員会による博士学位予備審査委員会の構成
- (4) 博士学位予備審査委員会による予備審査
- (5) 博士学位予備審査委員会の審査報告に基づく研究科委員会による博士学位審査申請の許可
- (6) 博士学位論文審査の申請
- (7) 研究科委員会による博士学位審査委員会の構成
- (8) 博士学位審査委員会による審査、公聴会を含む最終試験
- (9) 博士学位審査委員会の審査報告に基づく研究科委員会による博士学位論文審査結果の決定
- (10) 学位授与

情報科学研究科博士学位論文審査日程等（博士後期課程）

- | | | |
|-----|---|--|
| 第1 | 博士課程研究題目届提出、研究科委員会による審査 | ： 研究科委員会（5月、11月開催） |
| 第2 | 博士学位論文の予備審査申請
提出先：事務局教務グループ
提出物：予備審査願、論文目録、論文、（参考論文）、論文要旨、履歴書、研究業績書 | ： 4月末、10月末締切り
第1～3・6号様式（予備審査） |
| | 博士学位予備審査委員会構成員名簿の提出
提出先：事務局教務グループ
（主査から事務局教務グループへ） | ： 5月中旬、11月中旬締切り
第5号様式 |
| 第3 | 研究科委員会による博士学位予備審査委員会の構成
構成員：主査、副査2名 計3名以上 | ： 研究科委員会（5月、11月開催） |
| 第4 | 博士学位予備審査委員会による予備審査
博士学位予備審査委員会から予備審査報告
提出先：事務局教務グループ
（主査から事務局教務グループへ） | ： 6月上旬、12月上旬実施
： 6月中旬、12月中旬締切り
第4・7号様式 |
| 第5 | 博士学位予備審査委員会の審査報告に基づく研究科委員会による博士学位審査申請の許可 | ： 研究科委員会（6月、12月開催）
第4・7号様式 |
| 第6 | 博士学位論文審査（本審査）の申請
提出先：事務局教務グループ
提出物：論文審査願、論文目録、論文、（参考論文）、論文要旨、履歴書、研究業績書 | ： 7月上旬、1月上旬締切り
第1～3・6号様式 |
| | 博士学位審査委員会構成員名簿の提出
提出先：事務局教務グループ
（主査から事務局教務グループへ） | ： 7月中旬、1月中旬締切り
第5号様式 |
| 第7 | 研究科委員会による博士学位審査委員会の構成
構成員：主査、副査2名 計3名以上 | ： 研究科委員会（7月、1月開催） |
| 第8 | 博士学位審査委員会による審査、公聴会を含む最終試験
博士学位審査委員会から審査報告
提出先：事務局教務グループ
（主査から事務局教務グループへ） | ： 8月上旬、2月上旬実施
： 8月中旬、2月中旬締切り
第4・7号様式 |
| 第9 | 博士学位審査委員会の審査報告に基づく研究科委員会による博士学位論文審査結果の決定 | ： 研究科委員会（9月、3月開催）
第4・7号様式 |
| 第10 | 学位授与 | ： 9月下旬、3月下旬 |

* 各申請様式は、[「いちだい教務掲示板」](#)からダウンロードできます。
（トップページ＞様式＞情報科学研究科）

2026年度 博士後期課程カリキュラム

情報科学専攻

授業科目	履修年次	期別	単位数	必修・選択の別
情報科学講究Ⅰ	1・2・3	前後期	2	必修
情報科学講究Ⅱ	1・2・3	前後期	2	必修
情報科学講究Ⅲ	1・2・3	前後期	2	選択
情報科学講究Ⅳ	1・2・3	前後期	2	選択
情報科学講究Ⅴ	1・2・3	前後期	2	選択
情報科学講究Ⅵ	1・2・3	前後期	2	選択
情報物性基礎講究	1・2・3	前後期	2	選択
情報生物材料講究	1・2・3	前後期	2	選択
情報科学特別実習	1・2・3	集中	4	選択
自主プロジェクト研究Ⅰ	1・2・3	前後期	2	選択
自主プロジェクト研究Ⅱ	1・2・3	前後期	2	選択

2026年度 博士後期課程の指導内容及び担当教員について

指 導 内 容	教 員 名	情報科学講究 I	情報科学講究 II	情報科学講究 III	情報科学講究 IV	情報科学講究 V	情報科学講究 VI	情報物性基礎講究	情報生物材料講究	情報科学特別実習	自主プロジェクト研究 I	自主プロジェクト研究 II
情報工学系												
コンピューティング												
リコンフィギャラブルシステムの設計と応用	教授 弘中 哲夫	○	○	○	○	○	○			○		
ディペンダブルコンピューティング	教授 井上 智生	○	○	○	○	○	○			○		
論理設計とスイッチング回路理論	教授 永山 忍	○	○	○	○	○	○			○		
ストカスティックコンピューティング	教授 市原 英行	○	○	○	○	○	○			○		
プログラミング言語処理系とソフトウェア開発環境	准教授 川端 英之		○		○		○				○	○
大規模集積回路のレイアウト自動合成	准教授 稲木 雅人		○		○		○				○	○
量子コンピューティングの理論と応用	准教授 ルカック マーティン		○		○		○				○	○
コミュニケーション												
大規模複雑ネットワークの分析と制御	教授 高野 知佐	○	○	○	○	○	○			○		
通信ネットワーク制御の設計および高度化	教授 小畑 博靖	○	○	○	○	○	○			○		
情報セキュリティ、ネットワークセキュリティ、暗号理論	准教授 稲村 勝樹		○		○		○				○	○
分散システムでの安全な情報共有	准教授 上土井 陽子		○		○		○				○	○
センシング												
ワイヤレスネットワークシステム	教授 西 正博	○	○	○	○	○	○			○		
モバイルネットワーク	教授 大田 知行		○		○		○				○	○
自律分散制御のためのネットワークソフトウェア	准教授 舟阪 淳一		○		○		○				○	○
3D原子イメージング科学の先端センサ材料創成への応用	准教授 八方 直久		○		○			○			○	○
高信頼な無線通信方式と電波測位方式	准教授 高橋 賢		○		○		○				○	○
大規模集積回路のレイアウト自動合成	准教授 稲木 雅人		○		○		○				○	○
分散システムでの安全な情報共有	准教授 上土井 陽子		○		○		○				○	○
無線ネットワークと電波応用システム	准教授 小林 真		○		○		○				○	○

指 導 内 容	教 員 名	情報科学講究 I	情報科学講究 II	情報科学講究 III	情報科学講究 IV	情報科学講究 V	情報科学講究 VI	情報物性基礎講究	情報生物材料講究	情報科学特別実習	自主プロジェクト研究 I	自主プロジェクト研究 II
知能情報科学系												
データ科学												
非構造化データからの知識発見とその工学的応用	教授 田村 慶一	○	○	○	○	○	○			○		
グラフ構造データに対する機械学習法とデータマイニングへの応用	教授 内田 智之	○	○	○	○	○	○			○		
代数多様体の理論とその情報科学分野への応用	教授 齋藤 夏雄	○	○	○	○	○	○			○		
多次元データベースとその応用	准教授 黒木 進		○		○		○				○	○
機械学習を用いたグラフ構造化データからの知識発見とその応用	講師 鈴木 祐介		○		○		○				○	○
人間情報学												
教育支援システム及び感性工学における学習理論	教授 松原行宏	○	○	○	○	○	○			○		
生物的適応システムのモデル化とその工学的応用	教授 原 章	○	○	○	○	○	○			○		
学習分析・教育データマイニングにおける教育・学習支援	准教授 毛利 考佑		○		○		○				○	○
知的検索インタフェースと実社会データへの応用	准教授 梶山 朋子		○		○		○				○	○
計算知能システムに関するモデリングと実データへの応用	准教授 鎌田 真		○		○		○				○	○
VRとfMRIを用いた感情および社会性に関する研究	准教授 河田 人美		○		○		○				○	○
生物集団行動の数理モデリングと群知能システムへの応用研究	准教授 白石 允梓		○		○		○				○	○
AR/VRを用いた学習支援手法およびシステム実装に関する研究	講師 岡本 勝		○		○		○				○	○
知能情報学												
音声言語情報処理と自然言語処理	教授 竹澤 寿幸	○	○	○	○	○	○			○		
情報理論と情報統計力学	教授 三村 和史	○	○	○	○	○	○			○		
コンピュータグラフィックスのための画像理解	准教授 宮崎 大輔		○		○		○				○	○
学習機械の確率的特性解析	教授 岩田 一貴	○	○	○	○	○	○			○		
数理モデルによるヒト行動モデリング及びデータサイエンス	准教授 下川 文明		○		○		○				○	○
感情を考慮したヒューマンコンピュータインタラクションとその応用	准教授 目良 和也		○		○		○				○	○

指 導 内 容	教 員 名	情報科学講究 I	情報科学講究 II	情報科学講究 III	情報科学講究 IV	情報科学講究 V	情報科学講究 VI	情報物性基礎講究	情報生物材料講究	情報科学特別実習	自主プロジェクト研究 I	自主プロジェクト研究 II
システム科学系												
人間・ロボット共生												
人間-機械システムの設計と制御	教授 小野 貴彦	○	○	○	○	○	○			○		
インテリジェント制御システムの設計	教授 小 寄 貴弘	○	○	○	○	○	○			○		
人間・ロボット間の相互作用の研究	教授 池田 徹志	○	○	○	○	○	○			○		
複合現実型実応用システムの構築	准教授 脇田 航		○		○		○				○	○
数理システムデザイン												
確率制御理論とその応用	教授 田中 輝雄	○	○	○	○	○	○			○		
実時間組込みシステムの設計検証及び最適化	教授 中田 明夫	○	○	○	○	○	○			○		
代数学、特にグレブナー基底理論の情報科学分野への応用	准教授 廣門 正行		○		○		○				○	○
関数近似と変数変換の開発・改善とその応用	准教授 岡山 友昭		○		○		○				○	○
進化的計算を利用した組込みシステムの最適化設計	准教授 村田 佳洋		○		○		○				○	○
量子情報理論を用いた通信理論及び信号処理	准教授 桑田 精一		○		○		○				○	○
インターフェースデザイン												
ロボットビジョンおよびマンマシンインタフェース	教授 李 仕剛	○	○	○	○	○	○			○		
サウンドデザインと快音化制御システムの構築	教授 石光 俊介	○	○	○	○	○	○			○		
分散システムの高信頼化	准教授 島 和之		○		○		○				○	○
認識および識別のための特徴パラメータ設計とパターン認識	准教授 中山 仁史		○		○		○				○	○
マルチエージェントシステムとその応用に関する研究	准教授 神尾 武司		○		○		○				○	○
人間の印象推定に関する研究	講師 マーク・アウエル・カストナー	○		○		○					○	○

指 導 内 容	教 員 名	情報科学講究 I	情報科学講究 II	情報科学講究 III	情報科学講究 IV	情報科学講究 V	情報科学講究 VI	情報物性基礎講究	情報生物材料講究	情報科学特別実習	自主プロジェクト研究 I	自主プロジェクト研究 II
医用情報科学系												
計算機実験による金属タンパク質の機能発現機構の解明と応用	教授 鷹野 優	○	○	○	○	○	○			○		
マイクロマシンデバイスとその医用応用	教授 式田 光宏	○	○	○	○	○	○			○		
情報通信技術の医療・ヘルスケアシステムへの応用	教授 田中 宏和	○	○	○	○	○	○			○		
定量的画像バイオマーカーの標準化と画像評価手法	教授 松本 圭一	○	○	○	○	○	○			○		
病気の診断に用いるバイオセンサーの開発	准教授 釘宮 章光		○		○				○		○	○
生体の脳機能に関する計算論的研究	教授 福田 浩士		○		○		○				○	○
生体信号の計測・解析とその医工学・福祉への応用	准教授 常盤 達司		○		○		○				○	○
医薬品設計に向けた物質変換反応の計算化学的研究	准教授 齋藤 徹		○		○		○				○	○
MEMS技術とその生体情報計測への応用	准教授 長谷川 義大		○		○		○				○	○
発光ダイオード(LED)の生物, 化学, 農業への応用に関する研究	准教授 香田 次郎		○		○		○				○	○

大学院関係諸規程

- (1) 広島市立大学大学院学則
- (2) 広島市立大学学位規程
- (3) 広島市立大学既修得単位認定規程
- (4) 広島市立大学学生の休学及び復学に関する規程
- (5) 広島市立大学学生の退学に関する規程
- (6) 公立大学法人広島市立大学学生の転学及び転学部等に関する規程
- (7) 広島市立大学学生の留学に関する規程
- (8) 広島市立大学派遣学生及び特別聴講学生に関する規程
- (9) 公立大学法人広島市立大学の授業料等に関する規程
- (10) 公立大学法人広島市立大学授業料等の減免に関する規程
- (11) 広島市立大学長期履修学生規程
- (12) 広島市立大学大学院におけるGPA制度に係る実施要綱

各研究科履修規程

- (1) 広島市立大学大学院国際学研究科履修規程
- (2) 広島市立大学大学院情報科学研究科履修規程
- (3) 広島市立大学大学院芸術学研究科履修規程
- (4) 広島市立大学大学院平和学研究科履修規程

別表第1(第19条関係)

(2) 情報科学研究科情報工学専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論 A (人文・社会科学)	1・2		2		(修了要件) 全研究科共通科目 2単位 研究科開設科目 講義 18単位以上 (*印の科目から8単位以上) 演習 8単位以上 計28単位
	人間論 B (自然科学)	1・2		2		
	国際関係と平和	1・2		2		
	ヒロシマと核の時代	1・2		2		
	日本論	1・2		2		
	研究論理	1・2		2		
	情報と社会	1・2		2		
	道具論	1・2		2		
研 究 科 開 設 科 目	都市論	1・2		2		合計30単位以上を修得し、研 究指導を受けた上で、修士論 文を提出し、その審査と最終 試験に合格すること。
	論理回路・システム特論	1・2		2		
	情報物性特論	1・2		2		
	* 計算機支援設計特論	1・2		2		
	* 回路設計自動化特論	1・2		2		
	* コンピュータアーキテク チャ特論	1・2		2		
	プログラミング言語特論	1・2		2		
	情報通信システム特論	1・2		2		
	情報通信方法特論	1・2		2		
	* 通信工学特論	1・2		2		
	情報ネットワーク特論	1・2		2		
	* ネットワークソフトウェア 特論	1・2		2		
	マルチメディア情報通信特 論	1・2		2		
	システムレベル設計検証特 論	1・2		2		
	* 通信トラヒック特論	1・2		2		
	情報伝送方式特論	1・2		2		
	計算量理論特論	1・2		2		
	学習システム特論	1・2		2		
	画像メディア工学特論	1・2		2		
	ヒューマンコンピュータイ ンタラクション特論	1・2		2		
	マルチメディアデータベース 特論	1・2		2		
	知的情報検索特論	1・2		2		
	確率的情報処理特論	1・2		2		
	計算知能特論	1・2		2		
	知能ロボティクス特論	1・2		2		
	知能数理特論 A	1・2		2		
	知能数理特論 B	1・2		2		
	数理学特論 A	1・2		2		
	数理学特論 B	1・2		2		
	情報工学特別演習 I	1・2	2			
	情報工学特別演習 II	1・2	2			
	情報工学特別演習 III	1・2	2			
	情報工学特別演習 IV	1・2	2			
	Advanced Seminar V	1・2		2		
Advanced Seminar VI	1・2		2			
情報科学特別基礎講義	1・2		2			
情報科学特別実践講義	1・2		2			
プロジェクト演習 I	1・2		1			
プロジェクト演習 II	1・2		1			
インターンシップ I	1・2		2			
インターンシップ II	1・2		2			

(3) 情報科学研究科知能工学専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論A(人文・社会科学)	1・2		2		(修了要件) 全研究科共通科目 2単位 研究科開設科目 講義 18単位以上 (*印の科目から8単位以上) 演習 8単位以上 計28単位
	人間論B(自然科学)	1・2		2		
	国際関係と平和	1・2		2		
	ヒロシマと核の時代	1・2		2		
	日本論	1・2		2		
	研究倫理	1・2		2		
	情報と社会	1・2		2		
	道具論	1・2		2		
	都市論	1・2		2		
研 究 科 開 設 科 目	* 知識工学特論	1・2		2		合計30単位以上を修得し、研 究指導を受けた上で、修士論 文を提出し、その審査と最終 試験に合格すること。
	* 知識ベース特論	1・2		2		
	計算知能特論	1・2		2		
	* 推論方式特論	1・2		2		
	* 計数量理論特論	1・2		2		
	学習システム特論	1・2		2		
	マルチメディアデータベース特論	1・2		2		
	知的情報検索特論	1・2		2		
	* 確率的情報処理特論	1・2		2		
	ネットワークソフトウェア特論	1・2		2		
	画像メディア工学特論	1・2		2		
	* 言語音声メディア工学特論	1・2		2		
	コンピュータグラフィックス特論	1・2		2		
	* パターン認識特論	1・2		2		
	* 知能数理特論A	1・2		2		
	知能数理特論B	1・2		2		
	ヒューマンコンピュータインタラクション特論	1・2		2		
	組込みアーキテクチャ設計・ソフトウェア設計特論	1・2		2		
	数理学特論A	1・2		2		
	数理学特論B	1・2		2		
	マルチメディア情報通信特論	1・2		2		
	情報通信方法特論	1・2		2		
	計算機支援設計特論	1・2		2		
	情報伝送方式特論	1・2		2		
	知能ロボティクス特論	1・2		2		
	知能工学特別演習 I	1・2	2			
	知能工学特別演習 II	1・2	2			
	知能工学特別演習 III	1・2	2			
	知能工学特別演習 IV	1・2	2			
	Advanced Seminar V	1・2		2		
	Advanced Seminar VI	1・2		2		
	情報科学特別基礎講義	1・2		2		
情報科学特別実践講義	1・2		2			
プロジェクト演習 I	1・2		1			
プロジェクト演習 II	1・2		1			
インターンシップ I	1・2		2			
インターンシップ II	1・2		2			

(4) 情報科学研究科システム工学専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論A(人文・社会科学)	1・2		2		(修了要件) 全研究科共通科目 2単位 研究科開設科目 講義 18単位以上 (*印の科目から8単位以上) 演習 8単位以上 計28単位
	人間論B(自然科学)	1・2		2		
	国際関係と平和	1・2		2		
	ヒロシマと核の時代	1・2		2		
	日本論	1・2		2		
	研究倫理	1・2		2		
	情報と社会	1・2		2		
	道具論	1・2		2		
	都市論	1・2		2		
研 究 科 開 設 科 目	* ロボットビジョン特論	1・2		2		合計30単位以上を修得し、研 究指導を受けた上で、修士論 文を提出し、その審査と最終 試験に合格すること。
	* インテリジェント制御特論	1・2		2		
	* システム推定学特論	1・2		2		
	* 知能ロボティクス特論	1・2		2		
	情報伝送方式特論	1・2		2		
	* 組み込みアーキテクチャ設 計・ソフトウェア設計特論	1・2		2		
	組み込みソフトウェア実装・ シミュレーション特論	1・2		2		
	ソフトウェア品質評価特論	1・2		2		
	* 音響システム特論	1・2		2		
	ヒューマンコンピュータイ ンタラクション特論	1・2		2		
	バーチャルリアリティ特論	1・2		2		
	情報通信方法特論	1・2		2		
	暗号と情報セキュリティ特 論	1・2		2		
	* 数理学特論A	1・2		2		
	数理学特論B	1・2		2		
	知能数理特論A	1・2		2		
	知能数理特論B	1・2		2		
	確率の情報処理特論	1・2		2		
	計算量理論特論	1・2		2		
	認識システム特論	1・2		2		
	製品企画プロジェクト特別 演習	1・2		1		
	組み込みソフトウェア実装特 別演習	1・2		1		
	マルチメディア情報通信特 論	1・2		1		
	画像メディア工学特論	1・2		1		
	学習システム特論	1・2		1		
	ネットワークソフトウェア 特論	1・2		1		
	計算機支援設計特論	1・2		1		
	計算知能特論	1・2		1		
	マルチメディアデータベース 特論	1・2		1		
	知的情報検索特論	1・2		1		
	視覚情報学特論	1・2		2		
	暗号と情報セキュリティ特 論	1・2		1		
	システム工学特別演習Ⅰ	1・2	2			
	システム工学特別演習Ⅱ	1・2	2			
	システム工学特別演習Ⅲ	1・2	2			
	システム工学特別演習Ⅳ	1・2	2			
	Advanced Seminar V	1・2		2		
	Advanced Seminar VI	1・2		2		
	情報科学特別基礎講義	1・2		2		
	情報科学特別実践講義	1・2		2		
医用ロボット学特論	1・2			2		
プロジェクト演習Ⅰ	1・2		1			
プロジェクト演習Ⅱ	1・2		1			
インターンシップⅠ	1・2		2			
インターンシップⅡ	1・2		2			

(5) 情報科学研究科医用情報科学専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
全研究科共通科目	人間論A(人文・社会科学)	1・2		2		(修了要件) 全研究科共通科目 2単位 研究科開設科目 講義 18単位以上 (*印の科目から8単位以上) 演習 8単位以上 計28単位
	人間論B(自然科学)	1・2		2		
	国際関係と平和	1・2		2		
	ヒロシマと核の時代	1・2		2		
	日本論	1・2		2		
	研究倫理	1・2		2		
	情報と社会	1・2		2		
	道具論	1・2		2		
	都市論	1・2		2		
研究科開設科目	* バイオ情報学特論	1・2		2		合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上で、修士論文を提出し、その審査と最終試験に合格すること。
	生物情報処理特論	1・2		2		
	視覚情報学特論	1・2		2		
	光計測システム特論	1・2		2		
	生体情報学特論	1・2		2		
	生体計測工学特論	1・2		2		
	* 生体機能画像解析学特論	1・2		2		
	* 医用情報通信特論	1・2		2		
	* 生体システム工学特論	1・2		2		
	* マイクロ医用工学特論	1・2		2		
	医用ロボット学特論	1・2		2		
	論理回路・システム特論	1・2		2		
	コンピュータアーキテクチャ特論	1・2		2		
	マルチメディア情報通信特論	1・2		2		
	情報通信方法特論	1・2		2		
	ネットワークソフトウェア特論	1・2		2		
	計算機支援設計特論	1・2		2		
	計算知能特論	1・2		2		
	情報伝送方式特論	1・2		2		
	マルチメディアデータベース特論	1・2		2		
	知的情報検索特論	1・2		2		
	確率的情報処理特論	1・2		2		
	知能ロボティクス特論	1・2		2		
	医用情報科学特別演習Ⅰ	1・2	2			
	医用情報科学特別演習Ⅱ	1・2	2			
	医用情報科学特別演習Ⅲ	1・2	2			
	医用情報科学特別演習Ⅳ	1・2	2			
	Advanced Seminar V	1・2		2		
	Advanced Seminar VI	1・2		2		
	情報科学特別基礎講義	1・2		2		
	情報科学特別実践講義	1・2		2		
	プロジェクト演習Ⅰ	1・2		1		
プロジェクト演習Ⅱ	1・2		1			
インターンシップⅠ	1・2		2			
インターンシップⅡ	1・2		2			

別表第2(第19条関係)

(2) 情報科学研究科情報科学専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
研究科開設科目	情報科学講究Ⅰ	1・2・3	2			(修了要件) 主指導教員による情報科学講究Ⅰ及び副指導教員による情報科学講究Ⅱを含む10単位を修得し、研究指導を受けた上で、博士論文を提出し、その審査と最終学力試験に合格すること。学術交流協定等により、あらかじめ相互に合意を得ている他大学院で修得した単位は、6単位を超えない範囲で認定することができる。
	情報科学講究Ⅱ	1・2・3	2			
	情報科学講究Ⅲ	1・2・3		2		
	情報科学講究Ⅳ	1・2・3		2		
	情報科学講究Ⅴ	1・2・3		2		
	情報科学講究Ⅵ	1・2・3		2		
	情報物性基礎講究	1・2・3		2		
	情報生物材料講究	1・2・3		2		
	環境情報学講究	1・2・3		2		
	情報科学特別実習	1・2・3		4		
	自主プロジェクト研究Ⅰ	1・2・3		2		
	自主プロジェクト研究Ⅱ	1・2・3		2		

(5) 情報科学研究科情報工学専攻

免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 数学

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
数学の教科及び教科の指導法に関する科目	知能数理特論A	2		最低必要修得単位数は、必修8単位を含め24単位
	知能数理特論B	2		
	数理科学特論A	2		
	数理科学特論B	2		
	計量理論特論		2	
	論理回路・システム特論		2	
	コンピュータアーキテクチャ特論		2	
	プログラミング言語特論		2	
	情報通信システム特論		2	
	情報ネットワーク特論		2	
	マルチメディア情報通信特論		2	
	通信工学特論		2	
	通信トラヒック特論		2	
	学習システム特論		2	
	画像メディア工学特論		2	
ヒューマンコンピュータインタラクション特論		2		

(6) 情報科学研究科情報工学専攻

免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 情報

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
情報の教科及び教科の指導法に関する科目	情報と社会	2		最低必要修得単位数は、必修4単位を含め24単位
	研究倫理	2		
	情報通信方法特論		2	
	ネットワークソフトウェア特論		2	
	計算機支援設計特論		2	
	回路設計自動化特論		2	
	情報伝送方式特論		2	
	情報物性特論		2	
	システムレベル設計検証特論		2	
	マルチメディアデータベース特論		2	
	知的情報検索特論		2	
	確率的情報処理特論		2	
	計算知能特論		2	
	知能ロボティクス特論		2	

(7) 情報科学研究科知能工学専攻
免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 数学

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
数学の教科及び教科の指導法に関する科目	知能数理特論A	2		最低必要修得単位数は、必修8単位を含め24単位
	知能数理特論B	2		
	数理科学特論A	2		
	数理科学特論B	2		
	計算量理論特論		2	
	コンピュータグラフィックス特論		2	
	知識ベース特論		2	
	推論方式特論		2	
	画像メディア工学特論		2	
	学習システム特論		2	
	パターン認識特論		2	
	ヒューマンコンピュータインタラクション特論		2	
マルチメディア情報通信特論		2		

(8) 情報科学研究科知能工学専攻
免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 情報

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
情報の教科及び教科の指導法に関する科目	情報と社会	2		最低必要修得単位数は、必修4単位を含め24単位
	研究倫理	2		
	情報通信方法特論		2	
	ネットワークソフトウェア特論		2	
	計算機支援設計特論		2	
	知識工学特論		2	
	計算知能特論		2	
	マルチメディアデータベース特論		2	
	知的情報検索特論		2	
	確率的情報処理特論		2	
	言語音声メディア工学特論		2	
	情報伝送方式特論		2	
	知能ロボティクス特論		2	

(9) 情報科学研究科システム工学専攻
免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 数学

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
数学の教科及び教科の指導法に関する科目	数理学特論A	2		最低必要修得単位数は、必修8単位を含め24単位
	数理学特論B	2		
	知能数理特論A	2		
	知能数理特論B	2		
	計算量理論特論		2	
	システム推定学特論		2	
	ヒューマンコンピュータインタラクション特論		2	
	視覚情報学特論		2	
	マルチメディア情報通信特論		2	
	画像メディア工学特論		2	
	学習システム特論		2	
	暗号と情報セキュリティ特論		2	

(10) 情報科学研究科システム工学専攻
免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 情報

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
情報の教科及び教科の指導法に関する科目	情報と社会	2		最低必要修得単位数は、必修4単位を含め24単位
	研究倫理	2		
	情報通信方法特論		2	
	ネットワークソフトウェア特論		2	
	計算機支援設計特論		2	
	情報伝送方式特論		2	
	インテリジェント制御特論		2	
	確率的情報処理特論		2	
	音響システム特論		2	
	組込みアーキテクチャ設計・ソフトウェア設計特論		2	
	組込みソフトウェア実装・シミュレーション特論		2	
	計算知能特論		2	
	マルチメディアデータベース特論		2	
	知的情報検索特論		2	
	知能ロボティクス特論		2	

(11) 情報科学研究科医用情報科学専攻
 免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 情報

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		適用
		教職必修科目	教職選択科目	
情報の教科及び教科の指導法に関する科目	情報と社会	2		最低必要修得単位数は、必修4単位を含め24単位
	研究倫理	2		
	情報通信方法特論		2	
	ネットワークソフトウェア特論		2	
	計算機支援設計特論		2	
	バイオ情報学特論		2	
	生体システム工学特論		2	
	マイクロ医用工学特論		2	
	医用情報通信特論		2	
	医用ロボット学特論		2	
	計算知能特論		2	
	情報伝送方式特論		2	
	マルチメディアデータベース特論		2	
	知的情報検索特論		2	
	確率的情報処理特論		2	
知能ロボティクス特論		2		

別表第 1 (第 1 2 条関係)

修了必要単位数

博士前期課程

区 分		必要単位数
全研究科共通科目		2 単位
研 究 科 開設科目	講 義	18 単位以上
	演 習	8 単位以上
	計	28 単位
修了必要単位数		30 単位

博士後期課程

修了必要単位数	<p>主指導教員による情報科学講究 I 及び副指導教員による情報科学講究 II を含む 10 単位。 学術交流協定等により、あらかじめ相互に合意を得ている他大学院で修得した単位は、6 単位を超えない範囲で認定することができる。</p>
---------	--

別表第 2 (第 1 4 条関係)

評 価	評 点
秀	90 点～100 点
優	80 点～89 点
良	70 点～79 点
可	60 点～69 点
不可	59 点以下

別表第1（第4条関係）

学 部 名	学 科 名	専攻分野の名称
国 際 学 部	国 際 学 科	国 際 学
情 報 科 学 部	情 報 工 学 科	情 報 科 学 又は 情 報 工 学
	知 能 工 学 科	
	シ ス テ ム 工 学 科	
	医 用 情 報 科 学 科	
芸 術 学 部	美 術 学 科	芸 術
	デ ザ イン 工 芸 学 科	

別表第2（第4条関係）

研 究 科 名	専 攻 名	専攻分野の名称
国 際 学 研 究 科	国 際 学 専 攻	学 術
情 報 科 学 研 究 科	情 報 工 学 専 攻	情 報 科 学 又は 情 報 工 学
	知 能 工 学 専 攻	
	シ ス テ ム 工 学 専 攻	
	医 用 情 報 科 学 専 攻	
芸 術 学 研 究 科	造 形 芸 術 専 攻	芸 術
平 和 学 研 究 科	平 和 学 専 攻	平 和 学

別表第3（第4条関係）

研 究 科 名	専 攻 名	専攻分野の名称
国 際 学 研 究 科	国 際 学 専 攻	学 術
情 報 科 学 研 究 科	情 報 科 学 専 攻	情 報 科 学 又は 情 報 工 学
芸 術 学 研 究 科	総 合 造 形 芸 術 専 攻	芸 術
平 和 学 研 究 科	平 和 学 専 攻	平 和 学

広島市立大学博士学位規程情報科学研究科内規

2024年3月14日
研究科委員会改正

第1章 総則

(趣旨)

第1条 広島市立大学学位規程（以下「規程」という。）第19条の規定に基づき、この内規を定める。

第2章 大学院情報科学研究科博士後期課程修了認定のために行う学位審査

(学位論文予備審査申請及び資格要件)

第2条 博士学位論文（以下「学位論文」という。）を提出する予定の者は、予備審査のため、指導教員の承認を得て、次の書類を研究科長に提出するものとし、提出の時期は別途定める。

- (1) 博士学位論文予備審査願 1通
- (2) 論文目録 3通
- (3) 学位論文 3通
- (4) 参考論文のあるときは、参考論文 3通
- (5) 論文要旨 3通
- (6) 履歴書 3通
- (7) 研究業績書 3通

2 予備審査の申請を提出することができる者は、所定の単位を修得した者又は学位論文を提出する日の属する学年末までに、所定の単位を修得する見込みが確実な者で、かつ、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を受けたものとする。

(予備審査)

第3条 研究科委員会は、第2条の規定による書類が提出されたときは、その内容が学位審査に値するか否かを判定するため、学位論文予備審査委員会（以下「予備審査委員会」という。）を設置し、予備審査を行う。

2 予備審査委員会に主査を置き、主査は、原則として、当該学位申請者の研究指導に当たる研究科委員会の委員とする。

3 予備審査委員会は、主査を含む博士後期課程資格基準（平成14年11月21日情報科学研究科委員会承認）の博士論文副査及び博士後期課程研究指導補助基準（以下「博士論文副査基準」という。）以上の資格を認定されている教員、3名以上で構成する。ただし、研究科委員会において必要と認めるときは、学内外の教員等を審査委員に加えることができる。

(結果報告)

第4条 予備審査委員会は、予備審査を終了したときは、文書で研究科委員会に報告し、

その承認を得るものとする。

(学位論文提出の時期及び資格要件)

第5条 学位論文の提出の時期は、別途定める。

- 2 学位論文を提出することができる者は、第3条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判定された者とする。
- 3 第3条の規定による予備審査委員会において学位審査に値すると判定された者が、博士學位論文の提出に至らなかった場合又は学位論文が認められなかった場合は、改めて予備審査を受けるものとする。

(学位論文提出の手続)

第6条 前条第2項の規定に該当する者が学位論文を提出する場合は、次の書類を指導教授の承認を得て研究科長に提出するものとする。

- (1) 博士學位論文審査願 1通
- (2) 論文目録 3通
- (3) 学位論文 3通
- (4) 参考論文のあるときは、参考論文 3通
- (5) 論文要旨 3通
- (6) 履歴書 3通
- (7) 研究業績書 3通

(学位論文の受理)

第7条 研究科長は、前条の規定により学位論文の提出があったときは、研究科委員会に受理すべきか否かを諮るものとする。

(審査委員会)

第8条 研究科委員会は、学位論文の受理を認めた場合は、速やかに博士學位論文審査委員会(以下「審査委員会」という。)を編成する。

- 2 審査委員会に主査を置き、主査は、原則として、当該学位申請者の研究指導に当たる研究科委員会の委員とする。
- 3 審査委員会は、主査を含む博士論文副査基準以上の資格を認定されている教員3名以上で構成する。ただし、研究科委員会において必要と認めたときは、学内外の教員等を審査委員に加えることができる。
- 4 審査委員会は、学位論文の審査と最終試験(口述試験その他審査委員会が必要とする試験)を実施し、その結果を研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。

第3章 論文提出による学位審査

(学位授与の申請をすることができる者の資格要件)

第9条 規程第3条第3項の規定に基づき、学位論文提出による博士の学位の授与を申請することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学院院博士後期課程に3年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、研究指導を受けた後退学した者

- (2) 大学院博士前期課程の修了者で、3年以上の研究歴を有するもの
- (3) 大学の卒業生で、5年以上の研究歴を有するもの
- (4) 前各号に掲げる者以外の者で、9年以上の研究歴を有するもの

(学位論文提出の手続き及び時期)

第10条 前条各号の一に該当する者が学位論文を提出する場合は、次の書類を研究科長を経て学長に提出するものとし、提出の時期は随時とする。

- (1) 学位申請書 1通
 - (2) 論文目録 3通
 - (3) 学位論文 3通
 - (4) 参考論文のあるときは、参考論文 3通
 - (5) 論文要旨 3通
 - (6) 履歴書 3通
 - (7) 研究業績書 3通
 - (8) 最終学校の卒業証明書又は卒業証書の写し（大学院修了証明書又は学位記の写し） 1通
 - (9) 研究期間を証する指導教授又はこれに準ずる者の証明書 1通
- 2 前項の規定にかかわらず、本学情報科学部卒業生及び本研究科修了生でその研究歴が本学に限られるものについては、前項第7号及び第8号に規定する書類は必要としない。

(学位論文の受理)

第11条 学位論文の受理については、第7条の規定を準用する。

(審査委員会・諮問委員会)

第12条 審査委員会の組織及び審査方法等については、第8条の規定を準用する。

- 2 研究科委員会は、規程第3条第3項に規定する学力の確認（以下「学力の確認」という。）を行うため、諮問委員会を設置する。
- 3 諮問委員会は、研究科委員会の委員のうちから選出された3名以上（主査1名、副査2名以上）の諮問委員（審査委員が諮問委員を兼ねることができる。）をもって組織する。ただし、研究科委員会において必要と認めるときは、学内外の教員等を諮問委員に加えることができる。
- 4 諮問委員会は、学力の確認を行い、その結果を研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。

(学力の確認方法)

第13条 学力の確認は、論文の内容を中心として、これに関連のある専門分野及び外国語について口頭又は筆記による試験により行う。ただし、研究科委員会が学歴、業績等により学位申請者の学力の確認を行い得ると認めるときは、試験の全部又は一部を省略することができる。

第4章 雑則

(書類の様式)

第 1 4 条 関係書類の様式は、別記第 1 号様式から別記第 8 号様式のとおりとする。

(その他)

第 1 5 条 この内規に定めるもののほか、必要な事項は、研究科委員会の議を経て研究科長が別に定める。

附 則 略

博士学位合格基準

令和2年2月20日
研究科委員会決定

課程博士および論文博士の審査において合格と判定するための基準を下記に示す。

最終的には、審査委員会が合格と判定し、更に、情報科学専攻委員会の投票の結果、合格と判定されることを必要とする。なお、下記（2-2）については、審査委員会および試問委員会で合格と判定し、更に、情報科学専攻委員会の投票の結果、合格と判定されることを必要とする。

（1）課程博士の場合

本審査申請時に、博士課程在学期間にジャーナルに投稿し博士後期課程在学期間に採録が決定された博士学位申請者が筆頭著者のフルペーパーが1編以上存在し、その内容が博士学位論文に記載されていること。更に、掲載時期は問わないもののジャーナルに採録が決定されたフルペーパーがもう1編以上、あるいは、査読付国際会議の論文集に採録が決定されたフルペーパーが2編以上存在し、その内容が博士学位論文に記載されていることとする。ただし、予備審査申請時まで、上述した基準を満たしておくことが望ましい。

（2）論文博士の場合

（2-1）博士後期課程を満期退学後、3年以内に博士学位論文を提出した場合

本審査申請時に、博士課程在学期間あるいは満期退学から3年以内にジャーナルに投稿し、博士後期課程在学期間あるいは満期退学から3年以内に採録が決定され、博士学位申請者が筆頭著者のフルペーパーが1編以上存在し、その内容が博士学位論文に記載されていること。更に、ジャーナルに採録が決定されたフルペーパーがもう1編以上、あるいは、査読付国際会議の論文集に採録が決定されたフルペーパーが2編以上存在し、その内容が博士学位論文に記載されていることとする。

（2-2）（2-1）以外の場合

本審査申請時に、ジャーナルに採録が決定されたフルペーパーが4編以上存在し、その内容が博士学位論文に記載されていることとする。ただし、これらのフルペーパーには博士学位申請者が筆頭著者のフルペーパーが少なくとも2編含まれ、かつそのうちの少なくとも1編は5年以内に公表したものとする。

上記の博士学位合格基準は、課程博士にあっては令和2年度入学者から適用し、論文博士にあっては令和2年度申請者より適用する。

情報科学研究科修士論文審査・最終試験実施要領

平成16年 3月18日
情報科学研究科決定

第1 修士学位論文の提出

修了予定の学生は、修士学位論文を主指導教員の承認を得た後、各専攻長を経て研究科長に提出する。

- ・ 期日 7月末日又は2月末日
- ・ 編数、部数 1編3部

第2 修士論文題目届の提出

修了予定の学生は、修士論文題目届を主指導教員の承認を得た後、各専攻長を経て研究科長に提出する。

- ・ 期日 6月又は1月の研究科委員会開催日の前日
- ・ 部数 1部

第3 論文審査委員

- (1) 各専攻長は、6月又は1月に開催される研究科委員会までに論文審査委員候補者（主指導教員及び論文に関係ある教員1名以上を加えた2名以上）を事務局を経て研究科長に提出する。
- (2) 論文審査委員候補者に他の研究科の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を加えることができる。
- (3) 論文審査委員（主査は主指導教員）は、研究科委員会が決定する。
- (4) 論文審査委員は、審査した論文について合格、不合格を決定する。

第4 最終試験

最終試験は、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出した者について、その修士論文を中心に筆記又は口頭により行う。

第5 修了判定

- (1) 各専攻長は、論文及び最終試験の結果を記した審査報告書を9月又は3月に開催される修了判定を行う研究科委員会までに、事務局を経て研究科長に提出する。
- (2) 研究科長は、審査報告書に基づいて研究科委員会に修了の判定を付議する。

広島市立大学大学院情報科学研究科学学位論文に係る審査基準等について

平成26年1月16日
研究科委員会決定

I 情報科学研究科博士前期課程

1 学位取得必要条件

学位論文を提出する日の属する学期末までに、広島市立大学大学院学則第34条に規定する在学期間に係る要件及び修得単位数に係る要件を満たし、かつ、主指導教員により、学位論文の作成等に関する指導を受けていること。

また、在籍する期間内に、修士論文に関連する外部発表を原則として行なっていること。

2 論文審査基準

情報科学研究科博士前期課程の学位授与に関しては、情報科学研究科修士論文審査・最終試験実施要領に定める手続きを経て、論文審査委員からの合否の判定に係る報告を受け、情報科学研究科委員会で合否の審議決定を行う。

修士論文の審査に当たっては、以下の項目を審査基準とし、総合的に判断する。

[審査基準]

(1) 新規性

論文の内容が、何らかの点で新しいものであること。

(2) 有効性

研究テーマや問題の設定に妥当性があり、得られた結果が学術や産業の発展に何らかの意味で役に立つものであること。

(3) 信頼性

先行研究や関連資料を踏まえ、研究目的を達成するために適切な方法が用いられていること。また、論文の内容や引用等が、信頼のおけるものであること。

(4) 了解性

本論の展開が、理解し易く明瞭に記述されていること。文章に合理性があり、修士論文としての体裁が守られていること。

II 情報科学研究科博士後期課程

1 学位取得必要条件

(1) 課程博士の場合

次のア及びイに規定する要件をいずれも満たしていること。

ア 学位論文を提出する日の属する学期末までに、広島市立大学大学院学則第35条に規定する在学期間に係る要件及び修得単位数に係る要件を満たし、かつ、指導教授により、学位論文の作成等に関する指導を受けていること。

イ 博士学位合格基準(1)に規定する基準を満たしていること。

(2) 論文博士の場合

次のア及びイに規定する要件をいずれも満たしていること。

- ア 広島市立大学博士学位規程情報科学研究科内規第9条に規定する資格要件を満たしていること。
- イ 博士学位合格基準（2）に規定する基準を満たしていること。

2 論文審査基準

情報科学研究科博士後期課程の学位授与に関しては、課程博士の場合、広島市立大学博士学位規程情報科学研究科内規に定める手続きを経て、審査委員会からの合否の判定に係る報告を受け、情報科学専攻委員会では合否の審議決定を行う。

論文博士の場合、広島市立大学博士学位規程情報科学研究科内規に定める手続きを経て、審査委員会及び試問委員会からの合否の判定に係る報告を受け、情報科学専攻委員会では合否の審議決定を行う。

博士学位論文の審査に当たっては、以下の項目を審査基準とし、国内外の水準を十分満たしているかどうかを総合的に判断する。

[審査基準]

(1) 新規性

論文の内容が、公知あるいは既知のことから容易に導き出せるものではなく、従来になく新しいものであること。

(2) 有効性

研究テーマや問題の設定に妥当性があり、得られた結果が学術や産業の発展に何らかの意味で役に立つものであること。

(3) 信頼性

先行研究や関連資料を十分に踏まえ、研究目的を達成するために適切な方法が用いられていること。また、論文の内容や引用等が、信頼のおけるものであること。

(4) 了解性

本論の展開が、十分理解し易く明瞭に記述されていること。文章に合理性があり、博士学位論文としての体裁が守られていること。

広島市立大学大学院情報科学研究科研究派遣学生に関する内規

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この内規は、広島市立大学大学院学則（以下「学則」という。）第25条の規程に基づいて、他大学大学院研究科又は研究所等（以下「他大学大学院研究科等」という。）において必要な研究指導を受ける本学大学院情報科学研究科（以下「本学研究科」という。）の学生（以下「研究派遣学生」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この内規において「大学間協議」とは、本学研究科と研究派遣学生を受入れる他大学大学院研究科等との間で行う次に掲げる事項についての協議をいう。

- (1) 研究指導の範囲等
- (2) 研究派遣学生数
- (3) 研究指導の認定方法等
- (4) 派遣の時期及び期間
- (5) 派遣、派遣期間の延長及び受入れの手続に関する事
- (6) 経費に関する事
- (7) その他必要な事項

(協定)

第3条 前条に規定する大学間協議については、本学研究科委員会の議を経て、研究科長が他大学大学院研究科等の長と文書を取り交わすものとする。

第2章 研究派遣学生

(出願手続)

第4条 研究派遣学生を志願する者は、研究派遣許可願（別紙様式1）を指導教員を経て、研究科長に提出しなければならない。

- 2 指導教員は、学生に他大学大学院研究科等において研究指導を受けさせることが教育上有益であると認めるときは、前項に規定する研究派遣許可願を研究科長へ提出するものとする。
- 3 出願の時期は、大学間協議の定めるところによる。

(派遣の許可)

第5条 派遣の許可は、本学研究科委員会の議を経て、研究科長が行う。

- 2 研究科長は、派遣を許可したときは、他大学大学院研究科等の長に大学間協議により定めた手続により、研究派遣学生の受入れを依頼するものとする。

(派遣期間)

第6条 研究派遣学生の派遣期間は、大学間協議により定めた期間とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、特別の理由があるときは、研究派遣学生は派遣期間延長願（別紙様式2）を指導教員を経て研究科長に提出し、許可を得てその期間を延長することができる。
- 3 派遣期間の延長の許可は、本学研究科委員会の議を経て、研究科長が行う。

第7条 前条の規定により、派遣期間の延長を許可したときは、大学間協議により定めた手続により、学生の受入れを依頼するものとする。

(在学期間への算入)

第8条 第6条の規程による派遣期間は、本学研究科の在学期間に算入する。

(授業料等)

第9条 研究派遣学生は、派遣期間中にあっても本学研究科の授業料を納付しなければならない。

2 前項に規定するもののほか、他大学大学院研究科等において必要な費用は、大学間協議による。

(規則の厳守)

第10条 研究派遣学生は、他大学大学院研究科等の諸規則を遵守しなければならない。

(派遣許可の取消し)

第11条 研究科長は、研究派遣学生がその履修の実が上がらないと認めるとき、その本分に反する行為があると認めるとき、又は授業料の納付の義務を怠ったときは、他大学大学院研究科等の長と協議の上、派遣の許可を取り消すことができる。

第3章 特別研究学生

(特別研究学生)

第12条 大学間協議において、他大学大学院研究科等から所属の学生等を本学研究科で研究指導が受けられることができるよう求められたときは、研究派遣学生のために特に必要があると認められる場合に限り、他大学大学院研究科等所属の学生等（以下「特別研究学生」という。）を受入れることができる。

(受入れの時期)

第13条 特別研究学生の受入れの時期は、大学間協議により定める。

(出願手続)

第14条 他大学大学院研究科等の長は、当該大学院研究科等の学生に、本学研究科の特別研究学生として研究指導を受けさせようとするときは、次の各号に掲げる書類を本学研究科長に提出するものとする。

- (1) 当該大学院の研究科長の依頼書（別紙様式3）
- (2) 特別研究学生の履歴書（別紙様式4）
- (3) 特別研究学生の研究計画書（別紙様式5）
- (4) 特別研究学生の宣誓書（別紙様式6）
- (5) 指導教員の紹介状（別紙様式7）

2 出願の時期は、大学間協議の定めるところによる。

(受入れの承認)

第15条 受入れ承認は、指導教員の承認を得た上で、本学研究科委員会の議を経て、研究科長が行う。

2 受入れを承認したときは、所属する他大学大学院研究科等の長を経て、当該特別研究学生に承認書（別紙様式8）を交付する。

(授業科目の聴講)

第16条 特別研究学生は、指導教員及び授業科目担当教員の承認を得て、研究に関連のある授業科目を聴講することができる。ただし、単位を修得することはできない。

(研究指導の期間)

第17条 研究指導期間は、大学間協議の定めるところによる。

2 前項の規定にかかわらず、本学研究科長が特別の理由があると認めるときは、研究指導期間を延長することができる。

第18条 大学間協議により定めた手続により研究指導期間の延長の依頼があるときは、次の各号に掲げる書類を本学研究科長に提出するものとする。

- (1) 当該大学院の研究科長の依頼書
- (2) 特別研究学生の研究計画書(別紙様式5)

2 研究指導期間延長の承認については第15条の規定を準用する。

(費用の負担)

第19条 実験実習に要する特別の費用は、特別研究学生の負担とする。

2 その他の費用については、大学間協議の定めるところによる。

(施設等の使用)

第20条 特別研究学生は、指導教員及び管理担当者の承認を得て、本学の施設及び設備を使用することができる。

(承認の取消し)

第21条 特別研究学生がこの内規に違反したとき又は疾病その他の理由により研究を継続する見込みがなくなったときは、本学研究科長は所属する他大学大学院研究科等の長と協議の上、受入れの承認を取り消すことができる。

(研究指導の報告等)

第22条 本学研究科の指導教員は、特別研究学生の研究指導が終了したときは、速やかに所定の研究指導実績報告書を本学研究科長に提出するものとする。

2 特別研究学生は、研究期間が終了したときは、速やかに研究報告書(別紙様式9)を本学研究科長に提出するものとする。

3 本学研究科長は、前2項の報告書を当該他大学大学院研究科等の長に送付するものとする。

附 則 略

(別紙様式1～9 省略)

情報科学研究科「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」実施要領

令和4年3月17日

情報科学研究科改正

1. [概要]

プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱは、研究者、技術者としての重要な資質である創造性、自主性および問題解決能力を養うことを目的とした課題解決型演習科目である。情報科学研究科の学生が専攻及び研究科の枠を越えてプロジェクトを編成し、学内の教職員及び地域の企業・自治体から提案された課題の解決・提案に取り組む。また、プロジェクト計画の立案、プロジェクトに係る経費や時間管理などのマネジメント、公開の場での成果発表を体験することで、実践能力の養成を図る。

2. [所掌委員会]

本授業科目（プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ）の履修に係る指導を行うため、研究科運営委員で構成するプロジェクト演習指導委員会（以下「指導委員会」という。）を置く。委員長は委員の互選で決定する。

3. [プロジェクト組織]

1つのプロジェクト組織は、以下に示す実施者並びに協力者からなる。実施者のうち1名を代表者とする。

- (1) 実施者：本授業科目を履修しようとする者。原則として、2名または3名からなる。
- (2) 協力者：実施者とともプロジェクトを実施する以下の条件を満たすもの。実施者が必要に応じて加えることができる。
 - ア 課題提案者（情報科学研究科教員を除く）
 - イ 実施者以外の本学学生（学部生、他学部・他研究科の学生を含む）
 - ウ 課題提案者が推薦し、アドバイザーが認める学外者

4. [プロジェクト関係者と役割]

各プロジェクトについて、以下の関係者とその役割を定義する。

- (1) 課題提案者：学内教職員および地域の企業・自治体。課題の提案と到達目標の設定を行う。情報科学研究科教員（講師以上に限る）の場合はアドバイザーを兼ねることができる。
- (2) アドバイザ：情報科学研究科（原則として講師以上）。課題提案者と実施者との連携を支援するとともに、教育的視点での指導を行う。具体的には、プロジェクトテーマや到達目標の調整及び進捗状況に応じた助言・指導を行う。プロジェクト遂行中に教育上の課題が生じた場合は、指導委員会へ報告するものとする。

5. [プロジェクト課題の公募とテーマの設定]

指導委員会は、学内教職員および地域の企業・自治体から課題を公募する。本授業科目を履修しようとする者は、課題提案者との協議を通じてプロジェクトテーマを設定し、プロジェクトとして実施するための組織を構成する。あわせて希望アドバイザーを選定する。

なお、本授業科目を履修しようとする者が自ら課題並びにプロジェクトテーマを設定したい場合は希望するアドバイザーに相談すること。希望アドバイザーが課題提案者を兼任することを承諾した場合に限り、当該テーマによる申請を認める。

6. [プロジェクトの申請]

プロジェクト代表者は、プロジェクトテーマ、組織、実施計画、予算、到達目標等を記した「プロジェクト計画書」を、別途指定する期日までに指導委員会に提出する。

7. [プロジェクト申請の審査]

指導委員会は、申請されたプロジェクトを審査し、その採否を決定する。なお、採択に際してはプロジェクト計画の一部修正など所要の指導を行うことができる。プロジェクトの実施に係る予算配分もあわせて決定する。

8. [プロジェクトの実施]

採択された各プロジェクトの実施者は、協力者とともにプロジェクトを実施する。プロジェクトの実施場所は、原則として学内とする。実施にあたっては、適宜、課題提案者との協議を行うとともに、アドバイザーによる助言・指導を受ける。

9. [プロジェクト計画の変更]

プロジェクト実施者は、プロジェクトの実施計画に大きな変更が生じたときは、速やかに「プロジェクト計画変更願」を提出する。指導委員会は、その可否を審議し、適宜指導を行う。

10. [プロジェクトの進捗並びに成果の報告・発表]

プロジェクト組織は、進捗状況を報告する「中間報告書」及び最終成果を報告する「成果報告書」を、それぞれ指定する期日までに指導委員会へ提出する。あわせて、指導委員会の定める日程に従い、プロジェクトの進捗に係る中間発表及び最終成果発表を行う。

11. [プロジェクト成果の評価と単位の認定]

指導委員会は、指導委員会委員、アドバイザー、その他指導委員会が必要と認める者で構成する評価会議を開催する。各プロジェクトについて、提出された報告書及び発表等を通じて、別途定める基準に従って評価し、その結果を。プロジェクト組織に通知する。

指導委員会は、実施者が履修する科目「プロジェクト演習 I」「プロジェクト演習 II」の成績について、それぞれ主に「中間報告」「最終成果報告」の評価結果に基づき、単位および成績を認定・決定する。

12. [採択件数等]

採択件数及び各プロジェクトに対する予算配分額は、プロジェクト演習の予算の範囲内で別に定める。

情報科学研究科「自主プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」実施要領

令和3年2月18日
情報科学研究科改正

1. [概要]

研究者、技術者としての重要な資質である創造性、自主性を養うことを目的とした研究プロジェクトを編成し、自ら選定した課題について調査・研究する。

2. [所掌委員会]

本授業科目の履修に係る指導を行うため、博士後期課程運営委員会で組織する自主プロジェクト研究指導委員会（以下「委員会」という。）を置き、委員長は委員の互選で決定する。

3. [申請資格]

情報科学研究科博士後期課程の学生を申請資格者とする。ただし、既履修者の別件同一科目の自主プロジェクト研究の協力参加は認めるが、重複して単位を認定しない。

4. [研究組織]

研究組織は、3名以内（1名でも可）のチーム編成とし、代表者を定めるものとする。

5. [研究の申請]

研究組織の代表者は別途指定する日までに「研究計画書」を委員会に提出する。なお、申請にあたっては、希望するアドバイザー（准教授又は講師）を申し出るものとする。

研究の指導・助言を希望するアドバイザーには事前に承諾を得ておくこと。

6. [研究申請の審査]

委員会において、研究申請の採否を決定する。なお、採択に際しては研究計画の一部修正など所要の指導を行う。

また、採択された研究組織の希望を参考にしてアドバイザーを定める。

7. [審査結果の通知]

委員長は研究申請の審査結果を速やかに研究組織の代表者及びアドバイザーに通知する。

8. [研究の実施]

採択された研究プロジェクトに対しては、委員会の承認を経て所要の予算を措置し、アドバイザーの助言・指導の下で研究を実施させる。

9. [研究の実施場所]

各研究プロジェクトは原則として学内において実施させる。

10. [アドバイザーの助言・指導]

アドバイザーは研究の進捗状況を把握し、助言・指導に当たるとともに、必要のつど委員会へ報告するものとする。

11. [研究計画の変更]

研究組織は、採択された研究計画に大きな変更が生じたときは、速やかに「研究計画変更願」を提出する。変更内容について、委員会で、その是非を協議する。

12. [研究終了の報告]

自主プロジェクト研究が終了したときは、個人又はチーム代表者は速やかに「研究報告書」を委員会へ提出する。

13. [研究成果の発表]

研究組織は、委員会の定める日程に従い研究内容の発表を行うものとする。

14. [単位の認定]

委員会は提出された「研究報告書」、研究成果の発表におけるプレゼンテーションの内容及び評価会議での評価を基に、成績を決定する。

合格した自主プロジェクト研究の研究組織全員に一科目について2単位を認定する。

15. [採択件数等]

採択件数及び1件あたりの配分額は、予算の範囲内で別に定める。

※「自主プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」研究計画書、研究報告書の様式は本学ホームページからダウンロードできます。(トップページ>在学生・保護者の方へ>履修について)

情報科学部・研究科「インターンシップ」実施要領

令和2年8月17日
情報科学研究科改定

学生は、各専攻の専門科目「インターンシップ」のシラバスを参照の上、単位認定を希望する場合は、以下のとおりすすめる。

1. キャリアセンターは、①掲示②キャリアセンターHP によりインターンシップに関する情報を学生に提供する。また、インターンシップ説明会(4月下旬)を実施する(単位認定については教務委員が説明する)。
学生は、キャリアセンター、企業HP、情報サイト等によりインターンシップの情報収集を行い、参加したいインターンシップを決定する。
2. 学生は、「応募票(別途様式)」を作成・提出する(提出先:キャリアセンター)。
3. 学生は、単位取得を希望する場合は、インターンシップ内容が単位認定の対象になるか否かをチューター(大学院生の場合は指導教員)に相談・確認する。
具体的な手続きは下記のとおりとする。
 - ①学生は、チューターとインターンシップ内容を検討しインターンシップに参加する前までに「インターンシップ単位認定申請書」を作成・提出する(提出先:キャリアセンター)。
 - ②上記「インターンシップ単位認定申請書」をキャリアセンターから教務グループへ提出し、学部教務委員会にて審議(単位認定の対象にするか否かを判定(7月～9月教務委員会))する。
 - ③教務グループは、判定結果をキャリアセンターへ連絡する。
 - ④キャリアセンターは、学生へ判定結果を連絡する。
4. キャリアセンターは、企業等へインターンシップ受入れに関する必要書類を送付する。
5. キャリアセンターは、企業等からキャリアセンターに受入れ決定の通知があった後、学生に受け入れ決定の連絡をする。
6. インターンシップ実施前準備
 - ①事故・損害への対応…学生は、災害傷害保険、賠償責任保険に加入した後にインターンシップに参加する。
※学生は、保険加入の有無をキャリアセンターで確認すること
 - ②機密保持への対応…学生は、キャリアセンターを通して、受入先企業等への誓約書を提出する。
 - ③キャリアセンターは、大学と受入先企業等間で覚書を締結する。
(②及び③においては企業によって対応が異なる。)
7. 学生は、キャリアセンターが実施する「インターンシップ事前研修」に参加する(6月下旬)。
8. 学生は、チューターによる事前研修を受ける(必要な場合のみ)。
9. 学生は、インターンシップへ参加する。

①学生は、「日報(別途様式)」を記入し・受入担当者から確認印を得る。

②非常時の連絡体制は下記のとおり

学生 → キャリアセンター → チューター → 学部長・学科長(研究科長・専攻長)

10. 学生は、インターンシップ終了後、「日報」及び「報告書」をキャリアセンターへ提出(10月末頃)する。

11. キャリアセンターは、「日報」「報告書」を取りまとめて、学科長・チューターへ提出する。

12. 学生は、報告会で報告する。(12月中旬)

①参加者…学生、学部長、学科長(専攻長)、チューター(指導教員)、就職キャリア支援委員

②報告会の日程は、就職キャリア支援委員が決定する。

③キャリアセンターは学生と時間などを調整し、学生に連絡する。

④報告会において、学科長(専攻長)は単位認定(学科長(専攻長))をする。